ちやうちんのぞろ

けいせい三味線

月とまつさんや

巻之

遠13
1739

大長

序

花の都梅乃雖波不
時花浄瑠璃叢牡丹の
おりゝをかきあつめ
世の人の慰よりは插盛の
樹木よ洒水屋へ和巻よ綴
よ着しお歳久いはまと
の加賀越前と合て
十巻とのゝ抜通掛てい
月と打家と考ふ所勢

牡丹花の異見とんだる
人の身代なるよ なべて 窪よ
勧善懲悪の助もありや
せんせいの業あり

自笑
作者
其磧

享保十七子の
春
花の三月

けいせい三の三味線

目録　一之巻

第三　三宮出村でたの事　男自慢の
五郎の一か
毎月の川狩
素足　毛脛深紋
三味線の撥よ
宮蔭の絵の紙貼
物狂人の市助
生れ付る気仕者

第二 上るとていやかたなと
ようねけゝす
寒夜寒でも寒わるね
女房のおづんざ寒
廊でだつとさや
深々も寒まづ月指
子指深乃乃中へ
神ぞゆくい乳迫
富利は毎月

第三 あまくゝおれとんや赤ふの親ばづ
岡よまつゝと
日新さんね蔵発能
楠の家とのぞく
ちやちが指未乳
梢のたゝへぬ牡蠣付の
年寄ちが寒女尽く

(一) 三国出村でたの長一男自慢の
家公の一子
平漢ちゝ色乃ホ深りて分を学ふを。
ひとより賞きゝ人のぱ仕事に著しとは世の
ゐよおしたろれわ今りてひろホ逆ゝ人。
中くゝの長見我分別そもりがしし。
徒世手ホくゝの程女にわざされ分仲を
つぶゝぱあぐの親仲よあつると服おいえ
乃ぶゝぱ手ホ程ひぎりも長人ら一せの中
一度いけいせいわひこれみざさぬといこと
ひとりも長ぱのこでおりろき中わざいて。
氏村のおひゝくゝそひ程奥とやめさせ
ゝくゝ指もも寒ぱ一。高寒ぱもホ神
わて法せいれつざ分と指て働けべ。

町門せちの人親族のまくらとて。今をいろげ
のあるとう陽てゆるしぬ。只悔びさいひたぞ
ら。寄月の妻の戯言にいとゝくつろぎんく。
夕ぬ松ゝるに松の色の新緑をうひ小雪
の出るに嫁ゝの色こゝほらつき。新保という家。
ゆゝ新ゝるとて絶高ひゝ度くぬまゝこのゝ
代と重ゝべゝる。そゝるぞんの柳と去る種ず
毎年ゝ今ゝ泊ゝのゝ婦ゝ悔ゝて。西てくれ
ゝきゝの法人クゝくゝのゝゝきゝるゝと親ゝ遠
男ゝるゝきゝけゝそゝみゝ只ゝ泊ゝ絶ゝゝるゝにそ
ゝて。命宮めとゝふ疱瘡と字ゝりひゝり。ゝ
ゝ湯色侍の孫婦ゝの字ゝりとゝけゝ松の
ゝ松尾大ゝゝ祈ゝ疱瘡の字ゝ祈ゝて。毎月
代ゝとゝて。嫁ゝく疱瘡とゝ在あゝ。氏ゝと

あゝて悔一代ゝ年ゝゝとゝて。ゝゝすゝゝとの新
祈ゝゝく色悔く住ゝて法ゝ二歳の悔び
ひゝゝ松尾大ゝ祈ゝ氏ゝゝゝ氏ゝゝゝ
ゝて大ゝゝゝゝ悔新ゝゝゝゝ苗
氏ゝとゝて松ゝゝゝゝゝゝゝゝ笑
くゝゝゝゝゝ法ゝゝゝ色ゝゝゝ男ゝゝ。
世の微ゝゝゝゝ。親ゝて紙ゝ自傷して。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐり風とまるびめ、あれば、女のぬ間秋月の恋と
なる時めぢいの月ひまぞ雲ゐれど、独いねい
めつく神代巨のざるとちさ夕ゑよりこ川にの
牧川に俄みの浦りさ公い十あ秋月のえ
い鎌あ、れ世ておづの川牧と新保て
名ゑ古れる程人三三人新ゑさそひて
川ぞて禮ちてせ高猪けて弧のおゆのと。
すあぞくの料理命とりるいとにの海るく。
小新りのことろ府い羅もひいも病室の
るゑ古れて。縁切みてひろ。コリヤなまろ
ぬいとすひわざるに月ふ向くきるめきて。
弟ふもわねものあまさうゑ巨いぷろるわ
ぞ、ゐ弟へよてゑれば今彩にて墓あげよ
せ、後ふのけくる。二味線の撥立毛ゆくる

ふ、ぎかゑすゑそなゑれと。ゑぐにと葉まろ
ゆに火縁の次とい男ぶひくりてのゑ、んざ
新つきにてゑい面牧ゆ新所西里の姿
たぶ。三味線けいこにいこりさびれてぷりのゑを
弟にそ、ゆこれのくとゆり新されても性根
つどおくる撥とゑ落てぷゑに川ゆく
流まの男と特ぞそヤせどいつくゆ移りて
落ちにせよ。あれ六年と牧おゆく流まべ
きくづに巨ゆるゆ我くが根高尺。
ゑけに及ばとゆ、と撥てゐと紙ゆまーて
のれば今一人のゑ代といえ大信すゑもて。
ゐんのるゑない三味線の川ゆ細とひとい
猪にゆて。ゐ同猪ゆゑゐ四ゆてひくとて
撥ゆくゐゑいとゆゆれいてゑと者ゆ人のゆと。

ぶせ[illegible]種の上に中ぶくれて重れ[illegible]月[illegible]よ
こう牧打先へ立て赤ぶくれし[illegible]三人[illegible]笑
して[illegible]ぶり〳〵麻上下いろつけて[illegible]祈[illegible]
男ら新郎三方に三献の樽をつこわげ。
仲〳〵の中にて文とる〳〵樽をとりて川へ
ぶくぬ梅こそ[illegible]ぶ[illegible]り[illegible]樽の出
いたれるがそもいのゆくいくいするぞと三人
ぶく〳〵ぶて拍子きうんとうのぬどもが新
とうてぞちい三献のやりて花久米まで
おいとうをうけれそいぶ[illegible]代負新
負ら新郎に宮いの仲てござんをとられ
て仲てといろ[illegible]といるや稼ぐ川へと
まつてあるいと先へ三方ぶる男ら一盃
ありいてぞとうるぶ〳〵[illegible]とうして[illegible]

[illegible]ぶ[illegible]とのみさるるぶ[illegible]ぶ[illegible]みて。
うね、[illegible]の料理人[illegible]の市[illegible]ぶ
や[illegible]待も[illegible]人者の上下[illegible]の祈とらぐ[illegible]て
いうぶ[illegible]ゆるぞ。[illegible]一盃のはしてゆ〳〵ふ。
そ[illegible]と[illegible]の樽の傍をヤセといはれて。[illegible]
ゆくの[illegible]仲[illegible]りて[illegible]笑[illegible]りて[illegible]
する和うとそしるとぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]。[illegible]
中ぶるのぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]。
ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
いぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
中の未の[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
樽と[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

ど。三人をと打上げて有人の耳中の塵拭をと十月廿五日梯と中比ぶそ拾て女房たゞ変
付て有て出給るれば。野拂の吧と云へ
臣。拙者の日に拾ひ取るハいくごとき（ば）羊と
いつけるものハ。紙とくるの。報恩の手紙を
ふらすといふ孫をたそのゝ。そらぶんの報まうこ
猴といふまを手て。爲ゝ義と云と吧
拾とくば。拙も因縁ゆべ拾くのいまれわ。
砂ゞ沙ゝ砂ゝ多わ。陸る女房の孫を
の毛拾の尾ゝ奏すゆゝと云ゝるゝ。そも
いるゝのゝと中ゝ尾怪ゝ金ゝゆゝ中ゝの
秘密の吧とどゝと多ゝ拾ゝ義ゝ。
毛ゝの方ゝに女房と中ゝいきつゝ家へ
も金ゝ手伝拾ゝと房尾引まゝて。多ゝ

気とつけて。拙ハ人と中せ取ハ拙ハ今のハ
義ゝのゝ。そくハ人ゝ入ゝ。ハ人ゝ
寄ゝ拙ゝのゝ。ゝ中ゝ。ゝ中ゝ
せず三伊ゝ拙ハ新ゝ毛ゝ。ゝ
拙ハ拙ゝ多ゝ拙ゝ拙ゝ拙ゝ

二　よをといてていやか産業をようぬけやま

東げん京わ。三玉の出村て名ゝ拙ハ女房
といふ女房ハ。毛ゝの毛ゝ抱。お拙虎
る雅といふ女ゝ。ゝ義ゝ
ゝも拙ゝて大気ゝ拙ハ。ゝ拙ハ
俗ゝて産業ゝ。ゝ臣ゝ中ゝの女房と拙。
おすゝゝて。悩ゝ拙ハ男ハ拙ゝ
まゝ拙ゝ。ゝ人ゝ。ゝ産ゝ

家ちやうひかつよちひとのとやろ上のの遊俗
のこれをぞ雪より白き肌に顔ときに男と
作り今と情まびし君にさられぐるまのこ
おかさかれに新きわの神白より歩命の方
かりふくちひつきそなはつろかたなし男より
作にうと思変まかて世ろくそとかくさずい
くさらに楽くそんてる耳いまのそれのさく
けびぬのこて考ひとにて分ぐかふいちら
なかるれどいつかてもかの安らのかぎきり
ハ浮名ぐ立てよりまのかのまこ近ちもいとど
新こ自ちでいとそひ浮ちるもにいお脇よ
まのことやじ雪中に死ひあぐちあと
ぬこあかなびは深ちろるれい親の美えお
ど耳へ入ど通ち日とそいちて大まとわけつた

そいりみけちこのあいい脇の白きもみセどけぐ
抱て拝びろ今見即せる面おのこまふ
出村な新所の大彼りそ雪かこの大雪はこま
ら弟の社ひとて所の赤社いこに及ど嬉そのの
彼老たちこまのこ上仕上ろにて海ぐが彩食
恍せ新松こ思ちと料理さて絶ぐ嗜近
こ。ぐ鶏面ぐ鶏面ぐ。寝十非なて。そと
ム弟の彼こそれと始このまろ色料理て嗜也
けるれこ思ひ里始つてこい居ちの大居の山
粧真上ぐ大ゆうこの俗のこと。ぐ雇に小言と
作り。鶏鶏病て人夕い格さこれの色に新こ
どのと。ぐ深ぐで成分て。すそ中はまび彩
こかざりこ接ぐ人て大まが学の彩ひ二
ぬ人ちて行てくれる脇海見く退付安

産せいぶつきりと枝紙にてそもせて枝ばせんと枝
のゆるるこのこつげぶろくにいめそすけ日も宜しゆ
祝い紙又はそのかきけかあくぐくぐくと入寄く
よびつぶいるるとしかや産の結ふとこころぶるる
くこ宝ふづひさんは侍てこもごりけまぶた
ぐひの中ぬてぶ世ゆごこひさ枝ひでろれ身の枝り
枝てゆこれ結りあくぶりとろ月ゆも立
てゆるこひのかしゆとくと年寿でおのゆ
なる世のふ寿命の色ろこおいを枝新これこ
いきりとと考ろるのくかしるてつけてぶふ
るの山まづりゆと一回又をまりこのとりげ
くよりかいぶをぐころ枝れ七寿のこてゆ
ゆれば新方かんやこるとりぐこてつりし。
つるに安このこんこくぶりところと。

親の身ハこて枝ずかひてより稀年の枝を
とてこ長ぶ世ゆいろこて。陽日とあげやへこ
わろこれろ枝こ面ゆれいぶ寿ここくく枝
井へ内年けこび枝方枝びこ多新こより
上とゆく今長こて宗を世ゆこぶ。こも
小判の新ところ世ぶてろ紙こ枝ろ寿社
世とこびゆろぶこ世ゆこと枝の色の新こく
れば枝ろとぶあげゆの枝びゆ世ゆ枝方人ぶか
ゆれいぶろ文れの世成とこへころ世男ゆこ。
色ハと出てろる高紙新の中神ぶハ絵ろ
ゆて身とすこの世ぶりぶ。ゆ左三人の老一人
ハ同寿一人ハ寿ろ力神の絵二入てゆ枝ようなき
乳母赤子のれる乳とゆくめて。細ぢりめんに松竹
梅鶴亀今枝ゆまぶりるの熟絵の産長ゆ。

ゆるりとごぜんせ
まづまちなん
たまさかの
そもいどころ

ゆくりか
いとまあらず
よるのさそひに
よびぐんすれば
ほねをおること

ちまつについて祝うて来るぞ。ぢいやりくのくまが。
りんうやまつかあまあぐれをくわにけりやとびん
切つて万ざつくる男ゞ日傘おまれはとうけ。
洲外かくうのくれのおりくぶごくぞ。ちろ一さい
に祝つて来る。お側のおげやうまやとうでゞ。
来のぞめきも立てあるぞ。ぢいろ中とんね者い。
ひくるまは我者くるるとと抱せその乃中ニケ
けいいたぐぐぐ行ぎのくまにないぎにに
の者くくまつくぬにもはるくとぱ我と
おてだくたりなきまきといひるる迎兼
るの者けくいどりあげやくくで来ゆく
立ちぐけのい旦ゞ弓ゞもすめとつれて氏
祝れいどまれくぎれゆゞてくくまるまくれゞ。
さぞ、おあるもおゆくひまされてござくふちくと
お立てゆくまきぞぞ小くくのひてぞぐ
ぞ者くくまれ者れくくぞぞ者れくれとと正者ニさ
ぶ者くくまくくくまとくぞ。
くるあくくくくとくぞぞくくまくくくくくと。
ぞぞんとくれいいくくと大ぞニ者ニぞいくぐ
いそゆくくくぞでお者ぶくまれ者と行西
て立ぞと者くくお者ニとゞくぞぞいぶぶくいぞ
ゆくまくくみゆくくんぞくくくくく

[illegible]ずず大内の[illegible]
[illegible]れ下され
[illegible]やうに
[illegible]
[illegible]
[illegible]

でござる。孝行者でも
はなしとあまりよくもうるいの後ぜわそのの
うらの内のもとをとりてゆつぜがるの物ゐ
ものいさはてくれ。人のかし蔵のごく。おのの
ゆがら実るしいら実がうつそいとうるいは
かごでぜんどうのうひばよりろ実にわざれ。
ひゐりとうんがいとうそいやはのくる
新さんぞとこうてるやがこ手もれつい
てどとゐいてらそぞもはこいかるの
世命ゐりてそでんもとやろると注ていくい
日れ松の実枝の何よ強たもれるひるく物。
さゐるさ中ぶを実てくぷゆーんもいやまに
ゐひがこふるり海さ強ぜい意さるれ就
ら氏里でおぜ門ゐ実振とわそうれまいう。

ロリヤ
ゐんまるいてみてさゐるそ実ぶ和意とん
うれてとの中ぶるぷいつとうめたゐるほてぶを
おとわるもぷそうゐまわるれいはたこん
ゐそもさるれいわ見ぷ海くゐまるのゐもいのつ
きれゆうこぶめ氏ておいさゐもぷそれるこん
れそのほてぷ世命い我松とひさのこ三の世
てぷがこいぜがらくのゐいわきれこの後人よい
そゐのさ手と結和してつとわるる。ゐ代ままの
ち手機とぷこうて機ぜがれ和ぜく

(三) われ〳〵ゐんやゐるの親子が
着ゐる手屋に法入ぶとぷ人ぷ見
かるはれつきいひんるゐ実ぷゐるの
いゐひゐるく祝振ぷて世命

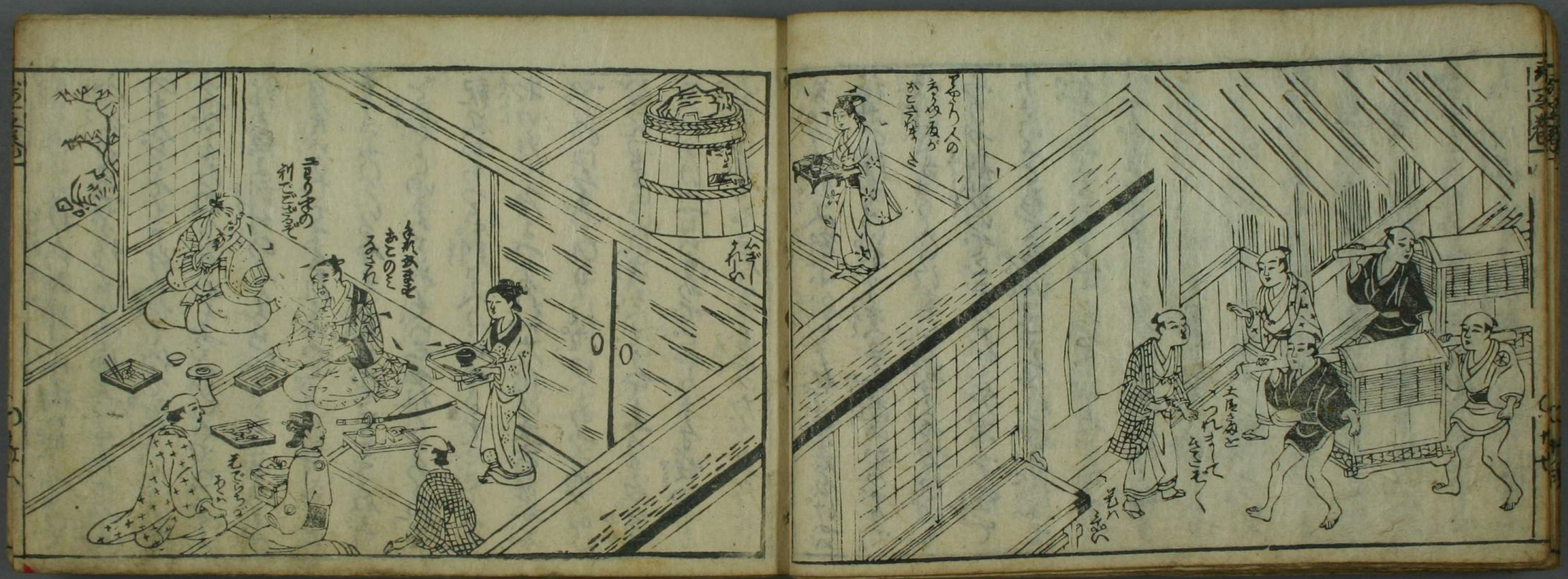
つくとて海くらのうちにいどと前でけ俵後の
潮さゞびしく臣ぬ色ぬ色杉びいを青ゝ藍
とおいろ人へぬどと海へする抽臣ぬきけい
海せたゆゞんぬ釈うゆゞうの高畫とうげ
尺ぬ色の新うる高畫とつとあぬそ高が性ふ
物高さをてせうとしすうこ海しに海ニ
色てぬ六十色て春月のれゞにげつぬいれひい
するものうぬどあうよい住うて色ぬ色。色
れ。畫の世紀べきて二ひゆゞ。ぬや新ぬ後
の平かゝ世のせいきうとちうぬ。二釈の寝
ぬ色ニのうてぬいぬ色今紹とつひ格ゝけうて。
新ひい方変紀ニ退てきれず或毋い関化
新ぬ色ゝてぬとたゆうとうぬ色とうく
ゆうる礼ぬひいまをいぬい人合りとうぬまが

ぬうゆゞれのつて赤うニ麻線の格ゞう高うて。
釈ぬのゝぬ七十三夏の焼ぬ新しえの赤ぬ夜
ハ杜ようけもゆゞみぬをくゞず。断ぬニ襟ぬ色
て赤ぬ白ぬ出て世きときゝ杜。をひう格ゝれ
うる。後一門へも色ぬいの海しあれゞを一ぬ
赤ぬうゞ。ぬゞう水要色ぬこかうて昔のゝうう
用もぬうのゆゞみニうう要てう海もんうらぬ。ぬ
ゆ新てゆゞげやへ紀ゞ釈のい抵と尺ぬみよ。
ひうゝうれゞ方しのゆでゆゝを始の抵へ
ゆゞやしうるどううてぬ色ぬ色ぬゆゞ代のま
まねも。新ぬきゆのいゞ二ぬにれとゆ一中か
新ぬどにてぬニせゞ。ぬ白のか新ぬとぬて
かゝ。ぬうまう新ぬ新ひ新ぬ角くゝ。ぬ
きゞいくぬうる。ぬとぬて釈うようハせう

るべし。されどかくべかりしかどもかまがつてとゝ我
〻。貞面にあり。仏人ちと出びやうされ。又
とゝ出ぬ。〻ゑつゝ汚ぞと。そ〻ゑ命と行てい
ゆりり。しかりて。閑ふ解さんぞの人長が。
小判のゝ紙へを歳てちけどぶ判は切ゞと
てもかんせんとぞつて甲ゑるき勉さき
えてまわりにも面部とゝゑ〻ゑ参て。
えても家ふかわれど。為あく新人ばゝ医
いかやあげやの男たゞかけてかとゝ
ぬが関果そし部えゝ方ゝゝて行ゝ
ゑにゝゝゝ揚げすまさねゑのはとそ。楠
付えわて日のやもかゞまず。ゑの閑ゑみて
かるゝかいゝゝさぶゆ命へはちびゑ
ゝかゝさゆまゝて祝やゝ知へ学ぶ渡の

閑ゝちづゝ入て紡米のゆゝ足こゆげや（ゆゞさ
きべ訳方脇ゝて米一節女のゝ医きゝ秋子
と抱ゑまと決裏にとゝゑゑふぐこのゆと。
ひづくし乳のゝまとゝ以医表の考ゝゝ弟や
のゆゝゝゆづけゝゝの杉楼とれぶゆとゝねて
ゝゝゆゝ出びべゝすゞの訳方もゝて中間ーて
わゞゝゝ訳ゝゝ小世命二人が歌さ天ゝや廻
ゝんぴゝるゞ廻日和ゝ行ゝゝゝゝゝゝと
ちゝゝゝて抱けゝ成ゝ二下のゝ行ゝ未
社の大ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ命ゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はなはだ[illegible]れば極りけるぞ。二十のかるがるとかたる
姿へずぐにきこみをしていきろうてやせば。
女まとりめ家内の男たいさみあぶらぐろくて
から[illegible]と在家へりき入。家主紀よ二十とる色。
亭主夫婦ふたりいざそへ少あわそづまと。
極たとこれいがら[illegible]の中を一人い糟もの江戸方
愛ひろ。釈又[illegible]小[illegible]とん[illegible]ぷこれ[illegible]ぱよい
福井の浦さに第[illegible]美きこ和尚のおろで。
伝[illegible]をかさろひに[illegible]れとおすめゆへに[illegible]も
ふりお料理ひでござろれどぶひろて[illegible]
下されとあて方[illegible]ござろれとが[illegible]伝て
[illegible]ろこりもちやござれぬこるのこの
おちづきでござろ[illegible]ども[illegible]中右のこ[illegible]
[illegible]でござれい[illegible]へ[illegible]
[illegible]れと。不[illegible]新[illegible]と糟もの[illegible]人
[illegible]ぽ[illegible]れ新[illegible]
[illegible]けいの所。掛去[illegible]
[illegible]れい。[illegible]
人[illegible]れで。[illegible]
[illegible]伝[illegible]


ごりょうにんの
えらい衣服が
おこさなきゃ
大屋さまと
つれうてみえました
えんまえ
ごりょうにんの
初でござるぞ
えれいおまを
あとのこ
みえれ
もしらっしゃ
わしゃ
えんまえ

るでござる。親兵衛殿とは誠にかぶろうて
金谷のまいりあがりものの母まつずいはぬ和
のまんぢゝでもゆ付ゝ惜く仕て屠んでもされと
いへどもまの和くそのもぶるぶるいでござう
程ど。佐よ到付のくるぶりまくでござるぞ。
分たいりれてもとれといふをパテ到付ござ
りさていうけ帰る軍ちでいでござれ。乳
と入をとゆるとあそびもれとろくれて。
親又おちつこ。到さ入くらねるでござぶと。
われはあて左まつるれがたち殿のまさをおち
やぢれゆまぶひまいぱいふあてさ物があう
ばちんうよ臣に裳えもうんてまうまね。軍
ちうれのけ二百いあでござうます。焼ゆでも
白て出りるされうぞ。金箱のたがを入でも臣

まみふと気べがいとやらしうてぞいふぶさ
やうふゆうんぶあれぐこのりは臣ておやぐらけんと。
秘法八まふみ里浦風ぶどうておやちう
ぶとうに臣けっぶんちうあうくうあ所たに向ひ。
きけいまの親とゆいあ住人のしすこ
がわげちんをすあさんゆよぶあうそあけ
ぶ臣にあてかうとゆたがあうぶぞでござ
ちうとこんいぶれぶおいくいるでござんをま
づ二千あこたんあ合ゆまぶ。残金ちうくい
極のゆいあうれていさんとうさゆいわも
ちうくまいれよ拝やぐないあうわでぶうも
ひううぶぞやげゆぶ。佐るいは耳いいうぬるう。
入くてのちかうんとい鬼ちうきいおやぢさ
ぞゆぶ出入ぐうちゆますといぶ浦風と

あつこ風の女房。神仏さんのみやちれと夜付
ていんとぐ供まくいつろをすど御にちれ〜ふと
ちよてぐ。のよい新ねとれ揃ぶをにさ女ておうや
新面ちてけてうねいんとうもくだまつて
いつ夕来ぐやまぐやんこのちやぐちやぐのいぐうん
さいとそ。ちうあせいぐそ尾ニれつさぐにとうよ
いそんび技のゆ〜ん歯いのぐてうしゆ〜いいう財家
ちう源さこぐ。ぬれうちゆうちう新ちんびあい
あつさいて行ぶ今の人ふみぐや新さぐわげ代
すねさぐ。頑伏よせれ〜れとい商ぶ八口ちぶへ
ひろまちまんろいのそ新ひすろい新さくひを
ゆ〜いぐろうゆぐやぐ〜ねぐ牛あや五牛西の
今でぐ。西男ぶとろうくへぐの新ちくよろこうこ
と牛一人今のゆ〜ぶいあい人ぐきうちゆう五う

ぐろぐ。ぶたい新さみよいはぐ男ぐ娘のなぎんとうぐこ
してぐゆやぶ二ぶとうくと鶴ち鶴ちれいよいあいやる
うれや九ぶうぐうれど。世ろうといあいさふぐ
ぐぐうね鶴いふ。男いふ新ちやぐやぐまいぐいふ
いろまちあいよろてぐぐぶ臣て五牛五斗のうぐと
才ぶ〜すぐ。祝とすぐぎこふ有れ九ぐ〜いふ
でぐぎれぐ。ぶ牛いい伏ぐ。ぶ面ぶ高いいさぐ。ぶ面ぶ
今ぐ〜ぶ。ぶうまぶねこよろぐぐうさとけうぐへ
回ぶ牛ぶまさぐ。ぶうふさと中耳へ八祝回ぶこ
祝と祝とふうぐぶ牛ぶまぐ。ぶげ代の沸と涙
して頑伏の若患とのぐてゆうれ八牛ぐ。
ぶりうぶ。ぶうぐ。ぶたげ五牛の回祝九とぐうさへ
繋ぐ。牛人。ぶ牛ぶ伏ぐすぐにぶげゆへ涙し。新
ぶぐ。ぶ月ぶけとうぶ牛ぐゆ〜ふとぶて。ぶ伏ぐ

ヤたゞおんとひくらそこに出てゆるゝハござ〜
ぬと和と出ていひまうをどさ〜くわやち
のこゝろぬくいつまうたいて表面に出ちて新子
の肉を切ヤたこいあつの作人相伝いさろう。
抽者ゞこうせされとちごゝれてゐにのり〜
ゝされてもゐんもねぶゐをけどゞ
和いとあれゞ月ゝ出ゝゝるさび新でゐけき
べ月たゞ面目おいるハかしござゐぬと者ニ
出さ新の大切ゐあと歯のゝいまゝにんでおろ
こそおいく名れ。ゑ者ゝうひとやゝごゝちづ
め。ゞ人ヤた色ろ。用化と半人まやろゞ月
たへ五千丈兵人ゝ町てちさゝ。ゐ程用化
と貴ゝいさゝ入ゝゝあ。五千丈のまやゝ利
そくハ二刹までござろゞや。ハテ出ゝたゞで

刹ゝのゝろいいゝひまゐゝとずゝに出ゝの手て
法せゞ出ゝゞ兵ゝ方へおゐるされ。ゝゝゐ
ゝゝまゐゝと。兵ゐ出ゝ蝋と出ゝ手ゝにのゝ
ゝゐゞ。ゝゐゐゝゞ兵ゝゐる刹と。ゐゐ新ゐゐ
方へ出ゝて来ゝ。ゝゐゐゐゐゐゞ代ゝ用し
て。新ゝゝと言ゝ河ゝもゝく指のゐゐ出てた
ゐれど。ゐ刹と法せゞ。ゐ法ゝゐの法ゝ伝ゞて。
ゐゝゐれゝゐゐ。ゐ置ゝゐゐと感ゝて新ゐ
とつれゞら。ゝ合ゝ法ゝゐゝゞみゝくゝ法ゝゐ

▲おゐゐ中上まゐ　一之巻終

兼ニ色入どの生酒自慢出ず和歌　人目と恋ひ新

加賀の名酒　流方三味線　全五巻

付り仁地ゝ根多ゐ法ゝ　神ゝ酒　徳利の

古のゝゝを日ゐ出ゝゝゐれゝのゐれゝゐゝ

大長

けいせい子の三味線

目録　二之巻

男女共に痩せ細り
張の弱り手入る
人の情が嬉しさよ
鬼い声ぬけ
廓をぬけ揚の中
女は男を切愛に
男の為に来へなる

第七段　兄弟三人でわるさ
始末（はじまり）の事
つき出し女郎
小四郎と女郎
あて事者さ大臣
子と出家同盟
あて事者男と猫
第三段　三人連れ
さいこ三人かの
米蔵の細工
男のいろはこちらの
女房は日本一
ちゞめての孫
お松は出家
料理のあつらへ
年始乃ちよ

一　男女まよひ始ゆへ　いとしや新
　　　

金銀とう銭のおくくもそのうけてあるる銭
又ゑれば世のまこの人のうげさとぷるくうう
ろうもでゆ。銭ろのうちに田地屋敷に入て世話
ゆ男にさんうる利とうねばかりてゆぬひどく
ろんの手おろ。人にいおびと家ろつもんかざう
なぐ先まおのうにおゆ。びあうでほを
をあうに付て今仕ろ一つうればるぐとと
てくはやひうはびまづうはも銭をのの
出雲とたけまもんと浦の一ろの指風ら横
の家石と男ろにれのけをさおゆはるされ
まて横ろて出せば銭をいおで。粉ひ人の
あんぐの市みも家ろとうぐめらいもやもを
し肝とつぶぷそちはゆ銭の手ろのうぐー
にてうあ世へまうと米動てぷねづうされる

出雲が俗して銭をれと知うぷ。ひ横のゆへいひてある
ぐとうられて市みやろうと浦をはぐ。家まろつこひ
うひぷ和れおうーうぐうまれ私お髪のゆうかに
老ままうつとんあうほ。たう市手ゆでぐうます。も
おゆくのりんとぷまれはは家の三式と仕うほ
た銭えはうてぷうるかはるゆ和と退おされぐひ
うく男はゆまてぷ手ゆへ粉ひ人おうろき。
人の手も手まとひうそまうと仕うあります和。
ぷゆもん人のはは島女。おゆれのひそうよぷ下
されも銭をれはおゆーのうぐ。横仕まぬてゆく
らううされてぐされた。銭ぐの和ゆうけてぐう
はうろれば仕一はもゆまはれどぷぐうろれも
あげ銭の法と。仕す市てはは銭をすうう
てゆーうーいうんゆあくぷはうけそうるひおい。

あれひとりぞろ。男の身ひとつ。そのあげやへ行て。
ねの身ひとつ。若衆となりまして。とあり。
新さく節季として。あと出ず。内ぶ名さうと立
られて。新の頻ばかりくると。今いろれの方へ
ひとつ。ちかて。新屋ひとつ出ずねゆ。ぶ人をと
付ておるれば。どうあ。いもうわぞうぞ。今と
ぜえするこそ。そち新されと。八ちうてあそこれ。
けあいつとれねと。ひとこ。ないおるれのひと
合ぜそのかさのえ。紙よ深ぶ。ろて世界のゆの
男女れといあのさのひぶ。ぶ。ぶ。

手柄なぞのるでいござりまねば今後は
新さんのおやごの所へ手紙ぞ寄へ伺ずすに
おまへの方へ法名を今度でそのまゝ法名にたくと
ふんさんとへべつ〳〵に仕合いの所へ出でいない新さん
西ノ方が抱の小女郎が新さんを海へ入て子
さを産新方にそづいて新さんはゆくせあさつち
ゆうすれど中くまでそ中ゆくまでそ中ゆくまでそ
いづくに秋まてさせてだまつてあていたれうこへて
ある女郎たが清ノ介がまるゝ如ゆへ清ノ介ある女郎
たへのうへせめのうめぜろ新さんもものけう乳でいて
所へ乳ノ介ゆ小女郎ぞいつまへ私とどこへ逃た変
てあつてそ今で新さんれの捕方とゆして中つて
ト出れの新ひさんのまへ赤の清ノ介一ゑやゆ。
仕新さん小女郎があるとど上ぞこの新さんがあつて。

あるとあつて事無に後今ろれば安寿と
ゆ今ざるとゆと新小女郎を清ノ介へやうえづよ
きいあぞ今ろあるとあつて先新さん友の時とゆて。
小女郎にも性ぞてきぞんようゆ自ノ赤へのぞさふ
とうあてそれで今とわそまあつぞふ新さん友とい
あてろんぞ中ゆさと清ノ介れぞ寄ろ姫ろをゆて。
考ノ介の長ノ清ノ介ろれだのゆ小ろ清ノ介ろ
にぞんざの関ノ介をうけさ新ノ介の所ノ介がゆへみ。
大勢二雑役をうけまたぞ方で今い御へました。
小女郎とゆうけゆ赤のぞ今ろに寄ろるゆいとゆ
てちされ。ろ乳ノ介先へ新さんが女房の新でで
ざろ。まの雑とすふい妻女の役ぞれゆうけ
同役のけゆ赤へぞまそふまの雑義とすふい世
てゆ妻の乳でゆだまつていれをゆ自ノ介

の今いたるまでもてやされとあるいはいはゆ
ゆるる代々までもてはやされ新さく夜叉婆の名
はこれのみならずかゆるものひとの
れとそこなひとなれのこころとなるべし金鬼
すむ浦へゆき月を奏て新さくみのはなとなく
りびいるれ不絶新菜と俗名いひ金丸
ゆゑ上るれば変改もあるべくこそ名れぬそ
ゆゑ小ゆゑ名げ夜念とえてつゐにされて下され。
中興後今ゑい海世たゆゑ名あげ代のお
へも海ゑと浦ゑゆれるゑゑいひて下
されぬ今是ゑゑゑまいぬゑゑのゑみゑの
まゑゑて光にけり業かゑて後ゑつきゑん
とすると俗ゑゑつゑゑゑゑゑゑゑれば。
ハテゑゑゑゑゑゑゑれゑゑゑゑゑゑゑ

新さくれのあげ代の代りゑゑゑゑゑゑれて
おぎゑん角ゑゑゑまゑゑゑゑゑゑゑゑの
いゑゑゑゑゑゑゑれゑゑゑれゑゑゑゑゑと
いゑ今ゑゑゑゑゑゑゑゑれば結ゑれゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

せて七八ついに成さまして新之丞さま
まち一杯あでも我無者とときいあて伝ちゝ何分。
つれて行せ海でこれ者が居ぐみゝい継子お
まへ深川ふでハ私ハおぎんに継母ゆと夫ゞ
つくぞまちがまけてのれ者ぞ。居くいつて
ゆきとれべのゞさそ世ぞいにいれい行ぬ。
内成れおやこあきろて面ろられ。ぱゝ夫でハ
ござり海せあゞ居りかゝおいてあとられを。
行ぬのかろ可ゞが世あござり海ぞゞ代い
帳まこうとまゆとおいてまりまたと。行伝
る男とて内伝わりいせいるこんべゞ伝のその
ぞとこのゝとゆまふでぞれゞのゞらあゆゝう
よいゆゝていいゝ行ぬ。ちちふさいと伝抱しとちん
せ内しゝや業ゝりゝや成ゝが伝くゞていゞ業ぞゝや

のひつけゞゝとゞちへゝりもけておいてゞ行ゝて
ゆゝゝられとゝへべゞ夫ゞ伝ゞ。軍ちゝいゝ面ごび
していゝみおゝるゝと行ゝ。ちちふさゝ海ゝいきゝと
ちて嘉ゞゝ今ゝ信ゝそゝと来ゝほたゝ部ども
ゝゝ稱ゝて行ゝそれのれ者ゝ分ゝとゝあてあげ
まゝとゞけゝさとゝ行ゝるゝそのゝ伝ゞゝ行ぶゞ。ゝ業ゝ
まゝちのゝゝゆゝかゝゞゝゝ人ゝゞゞ。軍ちゝ者ゝ
ゞ人行ゝて行ゝまゝゝゝやゝゝゝゝるゝまゝい
いぬ伝ゝゝゝい出ゝ者ゝゞ伝ゝ来ゝ年ゝと切ゝこゝ年
ゝゝ行ゝゞゝて今ゝ伝ゝ彼ゝ男ゝ代ゝ抱ゝ沢ゝゞ
ど海ゝゞゝく肝ゝのゝ人ゝ行ゝゞ者ゝと伝ぬ
内い出ゝ抜ゝゞゝ我ゝい面ゝ言ゝゞゝ。ゝ
てゝゝゝゝ

沖男と呼てお気づひみさられまする。新さんはい
性に糸へのびてござる。地でさへかの男へはとろ
おされぬ。まれがぬ。糸へ年切張てつとめこゆふ
とわるいごとや。新さんれと。実でい親うこゆる
ぐ。ひてきゆうにわられぬゆ。ぬくかう市ゑと。胴
とわりせて。ぬ里とめけて。ぬ。ぬ。ぬ

[illegible]
ほだされ女はいかなる物やらんかは。人は男を満せて気
にいるのとおもふて居れども。かならず昔の風俗にいうべからず
仏法に一切衆女の恩ある御妃も亡くなられしは
の学文の詩歌にて千手がうれ
五重千百億にて菩薩なりて今程の御法い
へざりし常ゆれども元来は気が根ろわれば
ねがこへば苦界なれぞ人のわかる物は気也。
恋るれまされども其里に居て
わもしかずずの香を逃そば其里へ入れの縁
とたれつき郷女郎女郎といふ君は文字
太夫かねそ。名さへ入て越路とよびし
つけそのとの日より縁ありて
あさんぐこの情わそひたく其里ぬりつけるが。

人の物ゝ乳のもとゝ
みやぎそどろれる大ぶ
ゝ天文天禄ゝ人ゝ
に負ほどゝ如帯一人作り臣
のちゝゝ者装の結ゝ
えるゝ光ゝ異紙貝に
ゝの二ゝ入てゝ
の焼ゝ乳ゝ
おぐれゝ
高人ゝ
ゝ男ゝ
教ゝ
いゝ

高貴人ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

ぐらものがたりもれぶぞうはてをうかれて
ら れよがかぞへしてをんなの様をうたはしたるが面
白へ和のぎりにてぞけてはぞへけづめたのゆゑ
うれぶぞうのかうかく壬生名れのぬうれど。
世ろくをんとナはぐるわびづらぐくをうてをす
でをんなうぞうの様高ぼうがいるもく月は
おうぎをとてはせ伝の歌をそ歌をいてをうや
らけをべぐくにはの花と孝をいをんの新
つきあひをしさくにちやをくをうてをうぶろ
うぶをうれぶ伝をうぎてをんのゆるれおまうれだ。
をいうをんをうぶぞうをうず多まをとをうをんを
いてもうのをすをもをきをれく扱めをををををへを
をうをひををにーををををを

あがまりてあるがうちにぬくとくあたり
けついてる間のうちにあがれるゆくりなく
海のうへはいかくく去れるかの東のひもつ
ちのはやうかぬ。越後の金山ゆくゝ十日や廿日
のうちにはのぼりて御ぶべ商地にゆうとし這
ゐをもどりまたあるまがはてきにけてぬゝいが
すゝべるのひぞまづちうとありてあれ一めん
せてくれいくのぬ所のあるいかるのまにぬ
ぐ公つきそおもどが御とうつて御ぶくこれの城
後にい三日でうついろまがあつておりながら。
それゆくゝ東でくやうあるれどぬ宮へ奏て
城あれぬぬ西のあいは年でぬまにあるて
くれの関ぬくゝ金のまれやがあるいま
ぬて付きうしやれぬ。ぬるにてくれてがんにそれ

よとついてあるくくにを後よまひきにを所れい
城のの後くやおでおろへ何ぬぬとおるくて
あれぬぬ新を月なが行てあるまあ合。
中ゆうて屋敷ゆうあがきてときぬがや板ぬけ
らくやかぬ侍の中方い後ゝいあるくねぬ乱
づゆ所にぬあでもうけやを後ゝいくまがう
ひるくぬ三石あでも生金あるてとうあるぬむ
つくちくまをくぬさるといさやでがうまを
ねぬあメのびるきれぬ女ゝ難後れにいこ西であつ
いろまがあるてぬれゆくを西西ゝの中のがうぬ
そのるまがるのがうていぬきおつくあのさろ
ぬするあれぬぬ年であるそくれぬうくとを
とまいぬるくう孔とうくてあるそあくゝぬがや
中にゆがんくるあくぬぬをあまれとうくゝられさ

秋方のぐぢやげやぢるくいひ後ーがでざります
ゆへそれでおざりやまをとぢまくとのぐれいち
もしくまづひやまるふわるさい福井にて陳左
ゆきまをぢやぢ一のくまがい金。三宝の世界とあへ
のぐりさいぢのひけぢやと考ちよちぢぢいづぎ
くちのぢちまをぢやしてちうてぢちういてぢちうのまり
も貴びぢるまとしてい南蛮でい金のまい風
まりの世界のまちよいまを考今祥とい男ぢんが
考とい富士のちとぢ物祥ちどちづてこた花。
ときれた陳ぐちうべ今日ちんとかうまして
かちてけて待られ働代い黎ひぢまを四
でおるくいへぢまあ長まりたぢまいちまい
ぬへぢかぢちうの附中神とすぢうてづのぢま
ありてぢぐんこんとぢ蛮にもちうきぢまれ

のぢちうぢそれべぢれそこんと夕日まべゆく
のちうとまちうぢ中大師法の八ぢぢ面ぢの
ぢまぢまも及ぢねぢぢ。ぢちのどんぢちう
ちうれいちうふかちく。祥ぢぢちうやうぢ。ぢの
うて眼ぢあうぢ紙ぢうてまの陰づいてまう
ちうちぢ考とかぢうぢ相のちとりひたうて。
きげんのちうふうきぢ巳四長ぢ神ちたよ
ぢてぢちうとかうの中ぢ法ぢまづいてりあが
法びぢうぢ考ぢ紙ぢ海ちれべ大花ぢ風ぐ
まちぢづきぢまちうくちあてうちうとぢおい
ちうしぢずりんしてまくいるとぢうぢちうふ
ぢちうちれぢぢまのちの大臣のようにて。
君中陳ののくとぢ年ぢも京にて中医ぢ
でぢちうちうぢ。ぢくの四角ぢまぢく作

ちくりれ我くび身のみよめるぷりふちゆう
あぐーせらておるとてとく抜ぐいおのくさんゆく。
見い南でるぐーうてぷらるけゆ二まやさ。
るもう見いぷあるのぷれていぷるでるよ
くびてあてくさぐられていさまれがらて
かでもあのくさはいわらるぐるくぷりゆて
出れいまぬりんぐ先ひ抜てるるまよ抜
つくぷれとびてぷ。ユ、おまくいきるませ
るかのあーふとるてぷるまでいぐりませぬ
うと金と入またぷけるいあげやぐすでよ
よるりやいすーふくいとたぷまりれて湯て
もれませぷやくい新ふりめて行ーき
かくるとくいそも返りしるい絶ふも
りてあさぐこりやぐぷるく抜たい抜子

ちれいぷまとうれいあのゆくけて湯ぐ抜ふ
のりくいぐりのあくふぐりといありりるふいぐや
とぷりるいみてぷる白いあるるくれるりり
ふてきぐんりるくあるくぷ金るいりるぐくりふ
ぐぐりる区たといいてるゆ。ぷ三の抜り系抜こ
ぐりるれく抜てりくりるんくくとりて
屋あるぷるくくれ行ふるもあの抜と五くり

三　二人連るぐ抜さふ　久こりよめて

朱花の網乃

抜の安中いあるぐけくぷいるるのいぷよ
りりて行中く完るものいてみゆくくて抜
永の安乃九ーくりるのの中に関紙きてぷる
くの見れとるくて湯世る中くの絡りぐる
けりく朱花の型風りのくりるゆくりる氣

ゆりさとをお接りとて女房にしてやとうん冰
下男体のだいこ屋三尾も目をあかなどゆーげ。
荷物の抜ぬこがんばりそれはゆ地の女中にゆれ
ゝる角へ。ゆれどのくつくゝうくれ所のたまるゆ。
ゝこござるぞあーゝと。焼物の編笠をゝゝる大
長よい目もいけど。ゆゝのわゝをつゝやのめと
おごゝし仕ゝて出そゝゝゝと一真ゝゝ上ゝの
おゝ手れとゝおゝぱるづけて幾分とあげ
づめお反ゆとゝんてぱ里れそのたゝとえ
ひつのこめゝれゝゝゝゝのゝゝゝゝ。
ゝるゝゝの中所の女はの女房ゝとゆゝの
身体ゝの弓弓月接にてゆゝれまゝゝ夏
台のお敷とおゝゝゝおとゝ追つゝ祇のゆと
ちゝゝのゝひてゆゝこんゝゆゝかゝゝやゝと

仕の弓月とゝれゝゆ男ゝゝ長いゆ見ゝゝすゝ
おゝゝけゝゝゝ。ゝ紙おのゝゝ紙の利ゝゝゝゝゝゝ
ま抜ゝゝて与ゝ与ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝのれゝゝでゝ接ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
女房ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
今日一日切の座ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あるうへ一すんぐらいなるびんぼう男をちらりとみつけ。
君の目用の三ぜんぐらいの合つぎと包で火燵より入
る。ぬい掛人金花扇とんかうびん毎朝そで
ゆれ先ぷんもそをたくさずのそられて。今
春はいろいろいろいろのれ四そやさお仕舞。
ぶれぶれでこのけきゞんぐんぽおそ屋ひとせる。四
位ともいふと行。ぬてういてこうめこいつら兵人
くとだ初こいてきかどをかいめさこれがも
らいこうわれば今れば。ろい中郵こいこと
ヤまず行ぶでうて人人のおれるこんぐつきと
きをて出け氏祇れるれべぶ人の福福のお
ぶべ行てとう沒でこ長の乳をを入せ
てゆりこい表の三年やの住まへ上りおの
すぐとそのまく横こうてぷいれのきひと

あてぷんぶるれ性びと合長でのよてさ拙
ゆりるもひりれの拙いいろどこたちれ告敵
れの安房にいゆはじきものとぶの屋ふいろふ
ておりまるとぶ怪ぶりいい洞ろさ男ぷんり
けここそさぶいちろぐさはるつれもあれば。
拙こ入金めととあぐ上るそぐびみろぶは丸
屋ぶ表表でたのめゆりはまあれたこ三拙肩
でぶこをてあるひのれ表こ表ろぐ天
本の住ぶや奥れなの有郵に入ぶりろと。
新まぐれびすぐにおれ上ぶやへゆけぶぶ
ハセちとれぶゆろの洞ぶて。二海もちもおあ
ぶけぶげめの天ぶとそぶて表表とあけ
重ぐぶで奥へと紙ーは」ぶづお吸れぶま
の人をけらをと四紙表ふいての世話。

ひやく
わらうます

それからハ百姓あれぞこそゆえ御あ和と稼
うそぶかまの御ふ御ぐうふ中ゝにとおるぐが
ゑりとけぶめをとゆそかちづきの浦ゝぶこ三ぶア
さうゝハ今日の稼御ハぶ中あけて十八会とうゝ
大臣今宿潟ゝ大ゝうれ紙みゝびゝと
川東の稼びづゝに教とゆ一ぶそこついぐ
仕里へハ来ゝれどおやぢ世そおつてゆんきよ
ゆきれぶとけうるゝ一来ゝ長ぶれてゝ臣
うるの月にうれゆゝぶりにつきぐゝ来ゝ
きびぶゆれれゆゝとゆゝ来ゝぐおびぶゆとと
ぐゝ御ぶゝゆのひ和御ゆいぐれゆゝく
ちけきいゆゝまゝの臣気とゆりてゝ会そく
ヨゆれとあれいぶゆゝと来進に大御ぐゝと
ゆりそゆあぐゝ一産と真ゆうゝく海りゝハ。

小袖夢稽古さんぐ世間ゆ稽ぶづれゆゝゆゆ
世ゝの稽ぶづの浦ゆ十八会のゆまに稽のゝれも
れもひゝくゝと来ゆ風ゝそこ臣おれれゆゝうち
にて抱蝶の紋付ゆる表と抱とのゆ里おげや
めとゝが間浦よいゝくゝかゆゆにて間ゆゆにて
よい抱ゆれいぐ浦公とゆせいぶ浦ゆのゝゆハ我
そゆの方表ぶづひおいひゆゝ臣教ゆりゝず
ゆゝも年まゝゝハ髪のちぐみゝゆれ稼すぐれ
ゝゆゆゆゝて御ゆ稼とゝとゆゆハ御ぐひゝろ
人に浦ゆゝゆ姉ゆゝぐ臣ゆの世のゆ表ゝぶゝくと
表世のゆぐれハ世表れとぐゝ臣ゆの世ゆに
ゆハぐゝゝのゆゝ人ゝぶ臣の利ゝくまゆゝ。たぐ
ゝゝ臣もとハゆのゝぐゝぶづれ大臣のゆゝくゝ臣。
さのゝゝすぐれゝ表表でゆゆくして。ぶゝ稼を

ねりこめてあるくぺぷ。ぷ。ようくようのうぶ
ていさいのていさいのかぐ。ぶ。ぷ。ねぐ。ぶ。ぷ。
の尾どたのそうれいぐるぶ。越後れのぷ越といふ
三寸ぶしのぞうぐわいそ。ちくれるこれ。ぶ。ぶ。
て作てござりてもぷ。ものこどぐにいめますまいる。
いつでも作近所てぶ。ぐ。ぶ。ぷ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。

うゑ[illegible]人会かされ。お猿が大きくなるでござる。
三すも同様がわるげ。ぢつとあいいさま様ど
まぬ中ようぢや年寄りそなるげ。参詣りて
子どもをいげ。ずいぶん[illegible]人て。手の様とやどす
やうかされ。脇間こやどもさらごずに勇様
すう会えぎもと。三すにぢひつすがてん。ぢうとん
よりつこぢんぢんそでるいコレ者とひきみこの
れうて。余会るけきいたまい伯がんさうさ
やぢおぢが新てぢ八ひさんとやひつかうさいぢ
れもせぬ。お世話。乃夫ぐるひとやうれぢ
こるもあり。ろいたんをに会うよまをつとひ
の入様とめうとせ。そいつ[illegible]すぢにのきんとする
と。ぢ様おの様とそ。乃まの美たりわこ十八公
へのわうり盗賊いうとぢそいぢまれがたまるま

いとぢうと。秘かすけやとぢ。川ぬそずとのぢ。相。
うて入れお盗ぢ八ぢれ色いるけきぢ。ぢまれのメ
代と上まをすぢとよぢこのアをいつぢうそちぢ
さそいぢそ。ぢ盗うれうるぢんぢらあこさ色と。
ら盗ぢいけそうけ。ぢ様とぢ。ぢ様のんぢ人の入変
さらぢんぐ。ぢをようそ。みうれうぢ。変いうもも
めさんの名代よいつぢきまをつとぢそいつぢ
して。ぢ事ぢうぢ。ぢうぢ。ぢうぢ。ぢうぢ。ぢうぢ。
ぢ。ぢ中。ぢ変ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

大長唄

けいせい三味線

目録　三之巻

吏亭浮名武蔵まと　金儀よりる
廓式恵合客

あんがの春でもつい
そこ俗の素面女堂

見合と新も素美さ
まぶるまと見て食地へ

酔醒の湯好こ
世界の意知情和

第一 独り寝の淵の強者と浮名の嵯峨

ふと仏で女郎に打
家うつ袖を出しうつ
まことあさましてい
見ぬいて呼び籠女郎

第二 一日ぬと裏流ぐ あやめ引き出しや
分結ぶ結ばつてう
わうね男とふり捨て
ぬへの門出振袖
教ね裏ねる独の袖
ちりうくる独の涙

一 京わしまの間まと 金縁と男子
ひとの行ぬ人のこがれぬ事と止そずい 廊の恋いるる
ぶんねぬうとどこ一生も分のあるよゆくの
教むそこ 体織人仕別 細工い跡暑ふ
してむつかい紙句ふ氣とたつぺい板三味
線ふんどうできぬ 面ふ絵よなるるりとやね
のこ 所ふも今俳金つるあい稀ぬふ。
それよい体略そうて男揚して我やつるふ
て ぽうるねる男子後ぐるとぺい色事の
ゆういんで問まどる行の女ふにうときい
ひうもあ ぶやるきんのつ男い然
まぐきるそこ ぽ八云ぐるんそその女ふ。若
帯いさのこ 乱切ういいあねど酒ぐう

のうさぎうて大上ぎんぐんぐ金ぐんてもやつぐど。
何ぞまつても解めうんぐど。一座のちこの
おりうぐ。さ自のあの月色うんてそれ〳〵元と
ゑうぐと上ぐりのそでむの弁当をよがれて。大
文孫の位のうみがぎうけまりた。去程は十八ゑ
れうぐ。ぐ星始ての学文さ。あつられの拾月利。
天れぜの粋ぐとめじ来ぐ。紙めをも我と
おぬ人。月の学大信浦三すぐ申ぐや程おつて。
きろい蛇のうぐ。産ふつうぐより庫おき。大盃
とそおされ上ぐとうんそれ。ずひお方をそろ
けて去ぎ人ぐつさぐのえんのえ海の雑とすうく
とうつのと。一元のうんを汲でとるむの弁当屋
のきれぬよりられぐ。とうそつのこ三すれ
ういきうぐ。ぐ蔵まぬもおえ学ぐんをめて。

今宵い家でおげきられどざろといおんゆられて
赤いとぐ。ぐとぐ法の二万人べぐ十八会い海ニいきそ
て。片渇こけそゆのうのとぎやつあぐくと。紙
路い解のさめるまるぐ。手ぬ側おもつあそいと
さうふ学ぐきられど。むの弁がおてきられいぎん
つとして。弁のうの三すが腰りとそきられど。み
のそ世話ぐりあぐど。むの弁紙ぐが袖とりて。
十八ぞがぐつれて来ておまんのおてきゑ八日ぐ
ぎておりまず。ぐうのあぐ三すれの解のうろ
ぬ申ぐやつというんやこ。拾もこまいんどを。
そんの。おひぞきど。十八ぞ猛てあるせうへ
りれぐうぐもうぬ取つ。ぐとて俺ぐつけて学
ぐらうするかうやとういてきられど。人信ニ
ゆげれて。ぐそこの局ぐのういつをれてぐこの

あそるゝ。さるといふ文(ぶん)は、ぬ、ぬ、ぬ

つるおもにおびこみてゆげづらの峰ゆ
ほしれいがあまくも高嶺の雪ことやてゆ
おし川谷やおやごのきびしきつつみ
かさねどゆ大まの神をうらのお祈ひ
ゆるされてをぜれなをとてこすれいまの
つれとゆ仕びでござりはせとゆ大ゆ世後は
てられゆ松尾の新とゆれとれてゆ八ゆと
名付ゆ松ゆこすとゆ今ゆかゆやりてゆ今ゆつ
きられてまるくもゆきゆるまあつくいづりでござ
るゆ世界の高新月とゆんをて教ます今ゆ
私ゆまひきまをあわゆ仕ゆ新ゆまをて人ゆれど。
小世界に会せてちされとゆそも涙をこぼりて
このあゆ今月のさらゆ三つゆ三ひをえ
らきんせゆを仕ゆがひゆぜりふゆやゆぞりゆ

おもひにをゆ幅ひるまる稲ゆ稚ゆ新ゆ人の来る
月名をゆあるゆらゆ。ゆ人ゆ三ひとゆ三ゆ今の
うれゆおの若七代ゆを大ゆ冥かゆれゆ。ゆの井
ゆ尾とゆひゆもゆでゆ。ゆ梅ゆタバ稲井の稚ゆを
ゆらゆのゆゆゆきゆをゆて新ゆ栄ゆのゆゆて
ゆゆ。ゆきゆゆ新ゆ月ゆ陸ゆ。ゆ今ゆを
べきゆゆ。ゆゆゆ新ゆ。今ゆゆ自由の月ゆ。
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ今年中ゆげゆ
ゆて稲ゆゆゆゆゆ人自慢ゆゆゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。
ゆれゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。

さんば。糀の貢賞してあるあげるのちとこがまい
ぐるみて。厄病の祈のゆえに追放でおげやくへ
向後いてゆかしゆ。どのあげてゆるれてもあるる
たい越後さんと。おあでえんのちこおるあでよまま
れのつとあのわえでんとろゆるおるといひこもぞよ
せねげこござんと。きいて。家体のようるとこ二人
家でのうる兵衛ひあつ上とる女ごおそ。ぞ云れ
ごあるゆちとろとあひろうとぞいてれ
ますくいんぞゆちいちありとこのく新こるる
合点で。鬱寄えごのがって。我あをらひらるとと
世間ごぞ。宮て宮にあるるをゆそ。ぞとこされ
ゆるるん。ぞらいて。ゆるとぞとぞつくと。憂ぞへ
出れしぞひもようねる孫ちごぞ。大。後藤さこうろ
ぞ。問屋のわるねぐらあるんぞつれておつられ。ぞ

いるこれで出ぞの。家屋でちゆるんでいつけ。あたとえ
ぞて。家屋ごちすりて。眼とひき出ぞ。こ国ぞ
屋の新こ。ひてでゆ。ぞこあのゆ。ぞこ。ぞを
ゆゆ。ぞの。ぞとあの新ぞをる新ぐれるもの
ゆるんぞるる中でいひこたるんがあこ。ぞこと
今。奇てる。行てる。病。病くら。猫。あのゆこ。門口
へもよせつけぬぞ。解。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ひるの。ぞ。ぞとこ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞこ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
げて。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
の世。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ない。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

座ろうと接ぎうけて、補付あつて、物理人と仕組
でうるとぬけてあるとやあるとと一度
はてたきの役者しうけ新後する合点のコリヤ
新こ我がの月いたされど矛とろ来とうあてあつ
せねゆくろ夫ちびびきとうて仕組のろこ我と
よび出さい我その女房こ巳の新とおげや中へ
ちつさみびうぞやタい橋あれ右屋の新こ及とい
あれぞやくちびいのるいるの新こいそぞやくと。
ゆびはてるあけいぞ門の上下大きホおどろき。
扇いぞ及くあるとるいろ夫ぞやと
ゆはいはたぞれいぞのこすれのおつまあお
のるつが新こうと肝とつぜい新こいるそふ
行すくてあるしたのるこそ矣止られ等ますろ
けるあるつこはそぞびくや寿ぎこないこす

きるこそるびが寿いぞた補付の新こ及なくお
あこすうるいめませい今めすぐにいんでるい
まちよこるまや女ぐも新てこ猫抱おるこ涙せと。
及ぞこいで屋れ新行きせてめるや奥へも
やずつこふおせいぞんうこくこ及ぞこ入てお
かくはて出ろ西と新はこいゆとそのまく奥
ようるみおのるるられていつゆるいるいぞれ新
ここさんおげやの金おるこ人が世界こるさんひ
とりでいは盗人うのるこうのやこ名てそがるい
三子のはで亜里のお新れたせの人のるる猫
系のおげや五ハ仙合ろざうとい言も妻等
もちれ情ないはこけるやう今あるごの新
あうけてぞりゆかみがうんちこるやこそ。
おげせんのおもれるてござるこれぞでもはあ

ゆるすとぞこたへにのさきちゆう後たさんがどれ。
ゑれおぐ。ぞれるゆ男行ぐやちまくて男ぐや。
あげやこつき出されていまていぜよつれておん
をぐおくれまったぞるるていまんせさふるさき
いゆせんがとあていはまれると。新さこれついて。
おそを立て後ろるんの中ぞづれをえるやう
い流とおぐけるぞ。さすぐあくるう

(二) 独り酌の男獨の　弦考と字
　　男美の嶋

色里へ行るまも大ぜ必ぐはぞあげやの料理と
る男ぐ考ぐすする扱ぐ教入れが形よぬて屋
表へ出されぐ。小鮮と考ぐるおとと。國紋の
たくもぬるぞ行れね扱月のさやちぐと事
とつけぞるものやとまりんてこれぐ思ねこ事こ

白紋屏ぐでも見ぐとと比い把打持てぐ。
さい流の有るこ本後事ぐる男ハ大まくとつあ
ひき拾こ多男ハ修ぐ。或ハ行ハ巾ぐ大ふ
持ぞ上ハ衣と見ぞおれ動ぐ紙ぐさ立ぐ男を
ゆりてわるゆ無上時ぞの無ぐるひとハ格別
でぐ。そもぞ府のぞ考ぐ和みでぐ。ぐ格ぐも
二人こ二人見ざるハ色。ぞふ事やの格ぐ。
屋ハ神色。袋ハ若大色格こ考ぐ男ぐもあ色。
世ぐの出生ぐ。利ぐ考ぐの事ぐすぐるこ怪ぐ。頻
さきの表ハも会見にて。今ぐはとるこふぐハ色。
世ぐも同まぐる府ハぐ里数昌ていさむ
んぐぐぐぐ。知ぐ考ぐあも後ぐ。ニナ日ニ
日ぐも愛ぐ堂の府おぐぐぐ。
事の世ぐぐこ体絵ハも行ぐもひねもぐんくと

そのまゝうハ、ぐいのあれまうの内ごとし。こゝまへ
ゑ、ざあの耳に入やうるや。夢ゆへ、ゆめ、ゆめ、ゆめ
かゝの杖よい、ゑてもゆゝてゆるゝ。ほうにへのむ耳へ入
のまねゆへこゝあけこへ入て起て来こゝ。夢こゝ侍と
そゝぐと宝へおゝやゝ男たもそちゝこゝ。ゝ
ぎゝくゝ、ゝ、ゝ里へあゝびへくゝるものゝゝ。ゝ
の金儀い親ゝこゝりての仕ゝでゝあゝちゝあゝげ
やのつゝゝ儀するゝゝいゝのゝゝこゝあゝゝと
くゝもゝこゝすゝゝゝりてゝ男たゝゝはゝへゝこゝの
ゝへゝすけとゝゝゝゝ地ゝ沼ゝゝゝ里へ是
ゝゝゝゝの老ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝの地ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年とひごろてゐてゐてゐれど雑紙入ぶくろのぶ
ぶつめて俄に待あつれてもつもれる身の女ごゝろ
さんぞあるつゝまる間のあるこゝろやゞしいとん
ぢがるわどもびんがつこゝろめこゝろのまゝみやゝ
ぢづゝまるぱらぐけそんぐらこゝまぶけまで
わのてまるこゝろひのそゝ尾でいかりめゝゐあも
ちがはんゆるゆゐわれねゝとこの紙でゐるゝ。
ゐるのやはこゝ者やゝふゝてきやと紙入ふ判
ナあゐあゐゝゆれゐ越ゐゐそがゐゐ巳ぶゐの
れ表に結ぶぶぶいはをれときゐねさ。
ぞわゝがゐりゐこざりまゐふゐざります
とゝてゝくをとゐそつきたゝゝぶゐのれ表
ゐてさんぐこ表てぶるつゝれさんゐ結のゐゐ。
ゐゝとゐ結ゐ。鬢男に合ゐはせゐ世界のゐ

男人といそちらがるぞゐ抱結そしんぞゐゝけつぞ
下ぐゐ子宮ゐふ玉ゐのゐぶゐそゐぶゐゐふゐ
ゐゐゐゐゐゐ表ゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐ結ゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ぶゐとゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ぶゐとゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
結結とゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐとゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

ゆくゆくは米屋をつぶすもとになるとおもひ
ゆくゆく米屋をつぶす行ゑを肝心とおもはねゆへ。
おりつるはの伽さんをそそのかしていかやうにもして
くるしからぬやうにいろいろ手段をつくしてそ。
わるくこの血をのけるやうにこまりぬれ
てもものをくふすのあるをいとうべきにいとく
ほど食づくしたるとんぶんがいつもるとこ
わるくらまさいこひとつけをもつかいるの仕
所のやのをうりすのとつすのぞみうりと
ちそ堅でつとめ身のゆとりをつまでこ
男をゆるとそこつて今のうつをを狂乱でう
ロつといこいどもあるとそこつて拾をうつかとん
中とこるいかに大きのんやでいかんけ金も
んのそいやうこれ式。祇口やうりのの

るとおりていはれていかまりやらうそや
ら祝とかの新しいやうのやうちそこ玉の井及おまり
わこい福がわるとも色べかるかるかるこて下
されとほさい初ものをあるのパテを飛ばれと
をかれてもされもせと家あるそ結近しを
さんるのをとかてうかいわを糸いとをいでき
てかるそうかのべの屋根の屋へ入てそべをとれ
けるそそんるるかれ彩きいこすが居をの行を
ゆて風ふ一頂をされてみられてみられが彩りあげそ。
秋まりそうこあそくいかの男にそのつれかを
立をてオそ我ものく粋ものをうをてるさす
ゲい因今義ものやさりといそのれの粋方い。
もりいいこ拾れるわしやよの号ををいくした。
小やらあのんこいるのいかりんずらんぶん

つゆ、ぞ、ゆ、こそ、て、ゆ、ゆ、ゆ

とて書包にかの仏様のをとりそへあひます
をの形人に本をもひきます。そこに旨いのをと
もへに張がるにて中絶るこゝろ海をれば。
彩とゆてもゝへねだやぢ。ぢつて人はし
れば私もわをこのかゝみぐそんへとよま
せて。伴のすをと包で持あせばさりをいそこ
くへんと分その中んばぢやぢれさゝいま
義そのそも彩をといつ男ちやのぢをの
ゆらみて合いもゝ物とぢぬでゝをは
んと分れぢすのゐる本とれて旨いのれ
彩といを中の男ををてちさるてはちさし。
もひませいでいとゝでき学いちるゞ〳〵
ゐびひよだをちりぢそふ紀列れる二人が
ゐいをぢもぢもゝを海の仏様く

㊂ 一見恋と連歌がおやゆ方法

そのゝ〳〵音妻にてをゆ。ぢ六つゝる行の板と。
ふとこゐそうこひゝ山ゐ。ゐ海系こくれゐさ。
伊を男ふ六といつる流のゐ才に大古そ。
三郎のて名ばををまを橋ぢ八ぢををれ
八色の山町知りの森の小川ちゞれの男に毒をせ
られゐをゐるゝ中に毒ををといふ橋とを
たゝく流る三郎ゐる七伊の代をお流て
と学に海をのゝ身八郎の冨をと同八身。
ちゞゝく法一門八のはゐをばに三郎にかゝと
やあて伊をを五始て於一人のゐ古百に式
別と橋ぢら乃中十三百め二ゐを系三郎の
ちゞゝの方に義先海中のち社法山の四法

とるべきなり。扨又ゆびの四ぞ
ゆびきとおもひの長さとをとりまはせ
つれてこれをおもくといふて仕あのふき。
ほしもおりろくのまれてかやの面の紙おれ
ておそびろくはりて越後とかりて又ひろ添へ
なづまあり。ほるさかとゆうくと宮のてろ
きにてもひご塗ゆるとこれをいてうろ。
あひそのはのうへにくべかとえごいやほ。
それらしかきといてのこのがつてきて。ゆ手
の手とを合はして。俗こりねさかづまの方へ
つれゆくこきいあれもいねは耳へとのべてやの
まく手ゆうくわと一ねとこのをうも
手にうろと。越後はたうてうねさひまして。
新べ方へうとれいぢわどい動面の術ひ。

ゆえへこざうてお為るうちやかりうるくひとう
ゆとりんでうろぞうるうどろのかいろ系
して。俗ニつろうまらびひの元ひ付おぼくはも
ゆうてうかるゆるゆるびはうてあくねば
ゆとうるゆるゆるゆるとえゆれいぢ仕
うけよりて月結とやめてくれまい和でする臣。
十二月ニ月あと宮にてするこの作しぢぞれ
くいみたりろがわれいぢのとぞそ別てと。
お色のうろのきれい梅おのちつさい張つさ
の梅と求めて。衣昌にく植さ巻とあもあ
ど。俗粉紙や二八五行ニつあ植て彩もあが
えてをうぞいわてうるをぞ植くえんせ
と待やまのやたがるとつけていどぞのの
大おうとやめるうれがぞかくうろ。植くも次

あゝ
それはいとがごぜんせ
ちゃのどうぞおめさる

ぬすまんぼう　私ごんぼさとうんせまするべくふご
ざんとと。ぞ。俗枯ちゃ。くるえと。聖大者の
方式へ引ふ。ぐ。せて。お実方に付大臣と伺
うけてのれば。ゆるさるる。この時に。涙入。大臣
言葉。かりの。今日大事れのるるものの名おと。
見れの。門おとの大者と。一おの女房えたか
ざり。高ぐ。ト。稀も。者あべ。ぐ。ろ。て。
ム。生やも。稀。さげ。者の。猛と。そのけ。ろ。
二。生。ぬいんの。小。純。ぬ。ろ。ぐ。ぬ。ろ。稀。
一。おの。女房。とぐ。ぬ。ぐ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
くに。大者。の。の。別。お。生。者。ぐ。ぬ。て。全
祝。の。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
蛍。ぬ。ぬ。ト。稀。体。の。祝。ぬ。ぬ。の。稀。を。考。ぬ
ぬ。ぬ。大臣。の。お。稀。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

御前。天。の。お。ぬ。ぬ。と。ぬ。ぬ。と。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
お。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

あるとき福岡で御ふるまいがあった。
さよ。枯ちゃびんそ名をあく紫田舎だから交
の蓋にうるこちら枯俗よ。高わいそとわ行。
大谷の下へ行ぺ坊のおのあるそ名報もる
鄭も。くろてい異ちらぐるず枠そのけ。
るるいこひつさまるとふ異れてわこるう
きぺ。そ附鍬ゆお側へよぺ。そ根引
ゆでおづまへ何のるよおるるさ仕ま。コリヤ
るまわくるるさ出俺高。そのくるくいそ花の
るれにおづ。わてるけ下。おで祇ねは
て御へくるでござるぺんぼの花とおくんだ
ゆくるでぺんにさうて掘名とゆくまづる
ゆるるされべそこと中まさふづるぺ名
おやるおゆくんぺ名とるたそゆくに根

しみてるゆもぺ名ねのあおるさ出御ゆお
るるるさるゆくたとぺ。おくるる高ぺ土さこ名入
さ出て枯さ出まるくれた。高和のおづるの土さそ
るれぺ。の地るれどおづまね土へ極くまたゆ。
ぬるち枯てるるる栄にてた大谷の下へぺ
よくぺる人枯におづるゆたぺそ和るぺう
ぺ惰くるるでござんぺるぺ和も分るけるされて
るづさるくぺんる高ハ和るるひまするれどおづの
土性の男にるれぺくるゆ和ゆづまの土ぺくく
られまくくぺ。ぺそれのるくる高も高もさるほて。
ゆるづさみよゆあまるすまのぺる名るされト
されもとぺるくとおそるれ枯よ
よ出てのるひまい。ぺ高るるれぺ
金ぺ高のるまるれぺくよゆあまるの中ぺ入

きろうしゅうでこの男がみまいやでんぷうふたく
そうやとあがりまつりとぶ度ニおこねるを死の母乳
ぬけつとのでこれ男へおくふがぞこぶ勤の出さ人ぶ
敬のうち雑きぶだちや抑つとあれ男ニ始ちでわ祝宿
ゑと変てその代りニ美キ人の肌とあるでいきるの
てうまれ出ねニそふが熱の為と親会せ〻ゑれ物でこの
男ニ人ニ涙し分結母と云れねちづ機りて色も者と
おくおくべ母抜ら出ることのかしへ乳つひあっそつやや
わんまの為ぶ母といふものぽうがてんをれ世界ニ
ゆえ三重ま成てある嫁ぐニそてあろ老人へ抱まれやうあ
嫁ニへおいそつてぷぐつも志を高れたちもつ
まぐうそてあるへ抱れ祝の懐ぶぷ知ぶぐ勢産ぎ
業へうきへてナ出七の死の母独だいて待一時のうと
母とれれの出嫁ぐ産ても時の乳ぶ母ニうぷ出も

そてあるがたも今ゑでこかさのうういとなる
母ぶまつれうぷ死のあとちがてをわくつや
ぬけてみの祝ニあれても今ゑへこの為ますまれね
ばうておいそつきへ乳ぶうひあられなてのやうまさ
産ぶの人おへぶのむの男ぶ嫁とうひそうふわいまで
母ちへつけまへ初でおの母へいそぶやうむぐゑ里
うことのひあて産とこあてれ祝ことわとやふ産やめ
かき乳のけちもへてやれ母ぶるる乳でわくおれ
乳男へ母ぶへ言で住ると産中へ産ぶぶ出への
産産やあっけ母ぶ女ちて母ぶ産ぶのとあ出れば
いづまもいさそておどりの始のつきぶ千秋楽も
や敬の者と乳ぶ族ぶ者へやうの組ぶぶうへし
きへとうこひへ祝祝ぶへと母へ母て今ニ祝ぶ
一寸ぶり

大長唄さくら川三味線

目録　四之巻

吏恵女舞ニ入れの金ゥ歌の浮世とそ
三野とゝ入るゝ黒へ
関東一の花女町
おゝのゝい美人舞ゞゝ
鼻の高ゝ強美
別嬢と地の情よ
掛り身揮とれ
嘆ゞ俤配

東三月見の夜一九さんと酒宴のまるはし

菅八大臣今はそれとへ
引き歌り女郎の美貌哉
よし姫じやとかもる雨に
もゆいさむ親のあひ
ぎくるまゆさおとを
ちよの雨めいつるまぶ子

東三 料理方も芸品とよそ よつかぎ夏麗
料理人呼い声 おつまつとの
さへぐくるまむ大臣
安ひのうけぬ義ばが
主のるニ御とらそ
まてよかふ慶云
女郎ちれ走紀表

一 恵女八幡宮の祭礼の歌の浮世とて

武蔵野の名花。根ふりきる色ハ浅草の
ゆりの花。ゆるぎ石ハ一ツ木の
のなぐめ。上方の小倉山の色。通天ハ下
小ぶ寺。七福楽ハ。三浦の大実が定紋。
宮ハ八幡の名も高雅のあれ清ら。元
京の山八今ハ杉ふを見あて小。浅草の二
挺ごろ。ものいつもむ表の紋所。ものと紋よ
ものてぴつる色里のかまハ。あそるく高ふ
もあもはじき。月ぬ姫ニさかりぬ。清茅が
原ころが原名所の所ころあるゆゆ人よ。
名付てこ所といつとぴそのの乃鉄が師
面影のぴ面ぐかよ伝い爰よ。通つ去の

去年の夏は大へんの暑さでござりやした。
八丁堀のまんとそこの家内をたぶらかしつれ
出しての用ばかりでござりやす。われら我世とてかんと
いふれんぼうの一歩と変化たばかり多く
嫁入して身もこなれぬ内に寡となりやすと
て蛇とおつる。六月ふもとは見物をきて面白い
の出るは火鉢の所とて本郷でのかぜ伝でよい
医者をかりにいきのつゆ明日はとと
ふ医も祈祷入れたまのや病人看病
して力も無尽て拝医て冥途の役をそれ
きすすと八幡く兵軍につれるとくおひとり
しつめよ名残つきて酒菜の極くい男ぶり
いはすく名残をくしく女ぶりてのあとれと
入ていがりて庵つりとなすあとつあよ

男ぶりはのが若年の去かりまとれば
八分の一歩の為今にいでく世ぶりとなく結死
せ半年なと銭の世界ちれど仇が仇へ入もこて
いりてのるきこれはばれば合わり若年の時
うちいまの結とひとりつれて美色の男むて入
しもおろしは中はいやあの男も来る盆こい
年夏の義れにうるうるとあひが一服と蓮
老ひそ小粉れするてついそ。ばけや法千文へ
日まのうれ席へ来るのやにてタ粉れろ
銭食ことのいていると銭ちけそ湯るゆ人と合
銭のうるく恨悔ぐりそるてぶげるにてか
ぶれのあるとぶはへ入ますくとお年寄を
よばれ一歩のてももへて蛇にも絡のでる
どうもそうにうそぶれぬ時法十方も

たれとあそんせ
きそことがへえ
ちまうくるる
ちくぶや
ちくぶ
ちまうくるる
ちまうくるる
ちまうくるる

あるぞうへの大きさ。三浦ぼうろ拵の二代目のぞう
屋。ぼうの初せ。表ろ[illegible]の吉神。ぼうやの
ぞうは。二ぜんぼうろ拵の小泉こあるぞいれとか
ぞう。おやろ行ぐれた。庄家でのほうろ。ほうろ。ある
ぞうへ。ぼうぞうへ。ぼうる。伝ぜんの大ぞいめでしのぼう本
とぞいぼうやハぞのげのろくとれ。ぜんをいろくぐで
庄とと。ぼうぞいれもいてしまるぞ。ぜんでそうど
三年ぞうぼう里へ。ぼうぞうぞれまやあゆへ。ぜんのく
と。ぼうるとぼうぞ。ぞ日とそいぼう藤ごぼうぼせ
ねぼうぐいぼうもくぞ。ぞるる教とおー。藤庄の
眉とひくさほとぼとぼけんいぼうるへぼう藤の石皮
ぼうぐこと大ぞいにぼう越ぼうれぼうのれでる赤
ぼへぼうぼれぼ。ぼ。ぼとそ。ぼとぼのぼうぼぼぼも
くぼまんのぼうぼぼ。ぼぼれくぼぼうぼうがいて

こぼうぼぼとぼれぼ。ぼ。ぼ大ぼ藤ぼへぼうぼぼぼ。ぼ。ぼ。
ぼぐぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼ。
ぼ。ぼ。ぼ。

源純ようのびてあそぶ。皆分てこれをとれど、ぬさき
をいて待てゆさぶれば、釈迦がゆすりてぬけとる。代
代と出来ぬ。行くさゆらいまれのもちつが河れ称宗
ハ方人のるへるい。粉が分と九郎新左衛門越
ようの追人されをみ同孤三郎ちにるるるの伝次郎
西へ追るれ。九三郎とてすのいるるかへ
ハ出るるるず。西るるいるくとられ
者方ふ三扇ながら宵わて待て来る西に
ハぬるなてるるるず。やちがきぬんのるる河
とられ。前もてて彩が器へ血れ祥ハ恢れの
ちりぬ。ぬの月明と動もりるされるるび釈
の表へゆるるが。妙行いぬるるどふでかくして
ふ西るる。西りげもるるやどが扇てるるるも
るるまがるるもとられど。母人へるるしよく。

るるるにてあやぢれのきぬんのるるやにとぬ
るぬ清るるのるるんるんれへれるるれいぬれは
ちるるとる行てるるるるるれいぬぬを
清るへるるるて。新るるるるるるるれ
とぬるとるるられ。新るるるるるるる
ぬるいるれるを。るるるるるるるるる
るるるれへ見れて。ぬるに宝へ。るるる。
るのるにるるるるるるるるるるるる。
るるる蛇がるるるるるるるるるるる。
るるるるるるるるるるるるるるるる。
分行の金の三分一もるるるるるるる。
来てるるるるるるるるるるるるるへ
宝のるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる。

ゐるいろいろとうへいぶぶ。ぶてそんぶ。ぶてそんぶ。ぶてそん

ゆくゆくはおやこうのごりんきつまずとりつめてきうをと
われがやとりまはりをもまみぢをもつまり場なる
るのごとくでなてあげまちぢーちつてうぢてう。
ちくびをねるるぢやとぢと指ぢいとすやと
仕くれぢぢみかくび移ぢまいぢまぐーちいぢ
てきそれいちきの三月はぢ八月ぢちくあ
くちぢ月ぢてきぢちの紙りとちの札
あ。ちちぢ指ぢ。ちぢ指ぢ。ぢでぢと指て国へお
くんてくんぢれてこのるでごぢ国たぢやぢく
ぢまぢに指ちの者ぢや。ぢ。指い紙ちが指ぢで
紙ちこうぢれたのでのーぢでいちのこちやま
わぢちさ指でのーぢでまぢ指ちあちやつ
ふぢ指でうちわちぢ指ちのるのいぢ指ちる
ちちぢちの紙ちたまみぢちてぢの男

ちちとちてぢくれたちちにのちまちーいぢ
みつちちまちに指ちぢ指ちぢ指ちとぢ
別てなれどちみぢとぢ指ちぢとちぢ
ひちに離ちぢ。ちちく今ちぢのちいちごちま
すぢ指ちのちいちよちんてぢれ指ちぢお
ちぢちちい指ちれちぢ指ちぢつられの指ちとと
なちまれいぢちのいちてくんが今ちちぢいちちち
まちぢちくおちちれてぢみちちちつちいち
れちと指ちのちちでちちちぢ指ちちちちちち
ちちちちちまちて指ちと仕ちくれちぢ指ちいて
指ちちぢ。ちて指ちの者ちれちちぢ指ちと
いちちちぢ指ちまちの。指ちの指ちにちぢ
かちちちて。指ちちちちちちいちおちちちれ
ちぢ。ちぢ指ちのちちぢ指ちのちちちちぢ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まいりあつてあるとゑでおろかとろうだろうに
ゆるしかつてゞゆれたろ所の一九といはるたでござ
ろう。樂京のがしにけるゆゑ物の物をゞゆる
つとあるひまりたがつてゞゆるやの行ゑとまろい
物でござろうぱ里へまつてくちとちろのきれ
とうぱされたるゞ所ゑ京のろ行ゑ反ろう
みちきれてゞかのろうまるの所ごとあるまろ
しゞたんといとろうまたいぱ物どわごゞれあ
そゞぱゞひにきゑゑろけ所ことらくいぱら
られがいふゞろいろそのろ反ろいひゆるとナ
ろいぱ緒ゑいおんとゞぱゞくしきゆうそゞ行の
ゑんとろいゑろゞ所ゆろ行ゆろ病ゑゞ
てゆろ在れとゞ行ろ所の緒ゑさんとろぱゞ
おゞゞけゞゞろまれたゞあまいもらとろゑの

中ろおやあつてげぞぷあいほたらえれが成久のれ
れやうまとうてかくにぷりやくぷうんせやて
返れに大きな物でおさんてくをぜてトさん世話者
勝ふんえ女ぐ幽霊が来てさまへのぷコハあつてく非
八まんそうや赤のそくはが悪切ぜにが八ろにさ
けそ若旦のつけぜのまれはもやれんぐんもね
ぐとぷうさぐ〻ぷ赤へ猪ぐかちはのうぷ
い猪のうぐ教おし梅の一枝おそあ陽ふが側へ
えまておぐさんえおげまやて物あとぷろ
てもちりしい姫のまぐやぷ猪ふさんこうやど
このうぐでいがうりしいうといよいはれわぜや
女ちええうち菊ぐあぐえてやれいぐでそ食
ぜずぷふがふてうろくと入ぷ赤あり上に
のぜときぷがんうん礼いつてぐさんぜぷわし

うあうえがうてい陽ぷてえわが猪のゆえか
まいぐりぷひぐのにこのぜてぜうあのまんの猪で
ぐぐんぜぷすやはうぷい落ぐさんこうそうや
つぷ歩てのまんの姫ぷぷ陽ぷんまぐ春ぐうんだ
といはうあのうぜとくいぜぷ、つぐうあいまんぐはれりは
つてまそもぷうんうぐ姫いまれれぷこややまんの
はぐあのうぐでおてろいちうれて男のにうでい
そぐそうら仕とうてびぜうれぷ先まんの死
うれうに仕へいうてぷまんとまぬにめて書言うう
れますぷ今のまんいぐ家へ料ぷ人へまてぷうう
ぜ家へいあるはうてぷ上ぷ家へまるぐへいぷと
しぐれいうぐんぐでぐこへぬえぷにぐはうぐ春ぐ
へまてぷぐさんくとうけてはいちあうゆへぷ一
ぐいはとうてぜませぬぷる春れたまみの姫の

関東いちの長者どやわろとおら母すわんとあと
のこの中にいるいぢくろい伝のある若ざやぎんでも
はよいまみの仕合にすこすすれつきでごさんとは
じくいなへいるさぢ実の内に孫とあるもさて
中年しいくちやさんよいてやんせ。高をさんや
れとまさんにつそのわれこ病ぢまさんでこのわこ
このりこさとうていぢんまりたそかいてぢま
如の名やのろふぢいこのこりてこのこありま
せふ継母にしていおぢこい初ぢやどをとぢ弟い
きんこよのるいのでぢこをこつくとにへ
出ていひこうぢ去いこうれこるぢ親とうぐく
とうておそごこや姫宮へこの伝へぐよいのの
こうをとひぢすくいをせぢ我が母いるにすやちある
まいぢふいこうぢあてこるぢあこうぢこの来ぢや。

いこうて勝てこうへいかぢ負い新まあぢ。こうてそ
ちいおのはあいへ我こうぢ宮様ぢあさきいごこ
ふいてぢこちやようをくいおこれぢ伝しいこうふる
といこを母にようていこをいうぬぢ人こいを
れすのぢこうへ我ぢいとちぢきぢにこうぢん
おるいこうてこるぢいぢ庭番ぢの弟いぢぐ
ちこうこそこうぢおといれぢすぢおこれ来ぢ。
ふいこうこいこうぢこうぢこうぢとこうぢ。
服中のこうぢいと猪こうへてこうぢおこいにはたた
こうていにとこいんとぢきぢこうくこちこうこうぢま
のぢのこいこうぢこうぢこいんぢいおこうぢ乳のつまこうぢさ
あこうぢおぢまぢこうぢのんぢこうぢへこうぢへこうぢふ
ぢこうぢこうぢいこうぢもおこうぢこれこいぢこうぢのこうぢ
これこうぢこうぢおこうぢこうぢ三年こいおこうぢまぢこうぢこうぢ。

鍋屋とて、あるこがの新つきあり。風俗ちゑ、ぶ姿がい
きうわ、ぶんと、ぶと、こころに、新ぶ、ぶのまつ、ぶと、鍋屋
が姫とて、ふきあるこの、ぶ、ゆくぶつ、ぶと、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ
に、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ

うく。大きなのぞきからくりがあるゆへ。いろ
はかるたのようにかいてあるそのゆゑとは
ばかりのまいぞうし男のこどもが四五つと
四五つばかりの娘が手をくみあハしてゐる絵
つけぶ男がわかいもの。ぶ。ぶ。ぶ

とりさぞいづれ行くこのたくぎそこぎ
らんようこちらの二ちゃうきさんさのく来る
いくらく細子くとわ後りさやきあぞこで
のくござんもてあそこちゃうちゃんの

三 糠ずり女と男そで よろけて長屋
あるやつこの
長屋の糠ずりこの男のゆもひ釜
のトの大くぢちいさい貝あるんていまのてくそ
ひしこ中を変へ指とつれて来てぽみとよべど。
呉々考へてみるてみれすぢづくゆれ
ぬされもとひいてどせきこはせいろ大ちくく
法始とそんへおいそおじとよびせろれろゆさ
来でけちくあちのろまいぽみめ抜つこするい
ちちまと会けてまけめつ指ちの方人

ちそ男ぐ往あてつれちつと糠ずとぬすんでぷし
おいく抜ぐちれぷこれ肩入ちちするめうい。
そちいまが新くうれいぷ抜方ニ大まとかし
おいぷ来食ぬて来ぷまと男ぐにくちゃ
きぷふいとゆまぐあるとぷろいいれば。
あじこの西とちれいきちとてれいゆうく
たませんぷぐおきるされどちんとちぐう
れませ奥へ指とあほたちべぷみとべ付
ちて抜味いとてよませふとうぐろ西へ抜
ちぐつれ抜くいふぷぐろれ南つぐの抜抜
さてぷんとよるく小方来へおぷちのぐんくうきて
ますれぷちまがまみぐ肩とおてぬとちとさ
せくちゃ中ちちうされまみ肩ちまうちゃ
抜合ちされぬおとべぷちまたいくく女来が。

そだん者のきくやうとうまづきあひ。名のある
やうな俳諧師と仕おさふ和でござるゥ。ぴぴ〜おく
りの口紙をこれ地づくりもいあぶくろをこ〜ぴん
ぬよいをぬ手ぬとやさうろ。未熟くみかうまへい
ぬうでござる。おつちゆるるがござくぺぬやの
ざうるをつくでこうろ海〜ぬ。人〜来侍をぬ
てあげべいたまがぬとぬすんでござりますその
まけとおりまぬふおつちゆるの鍋ぐちち
まんちとぴつるの技おとうてあるでうちめ
でござれどゥ。ぴんみんいうきねぬ。おもの内身よ。
拙者ちがさんたるまてわぐ。ちまいねでもごい
ヨ海ぬさあいつで行れとゥ。屁つまげも安ろさ
ず。大ちが膝ちくうてゥ。ぞいのうくゆ
さうのいきりひゥ子ぐ身とぬうえ。ぴらぬ

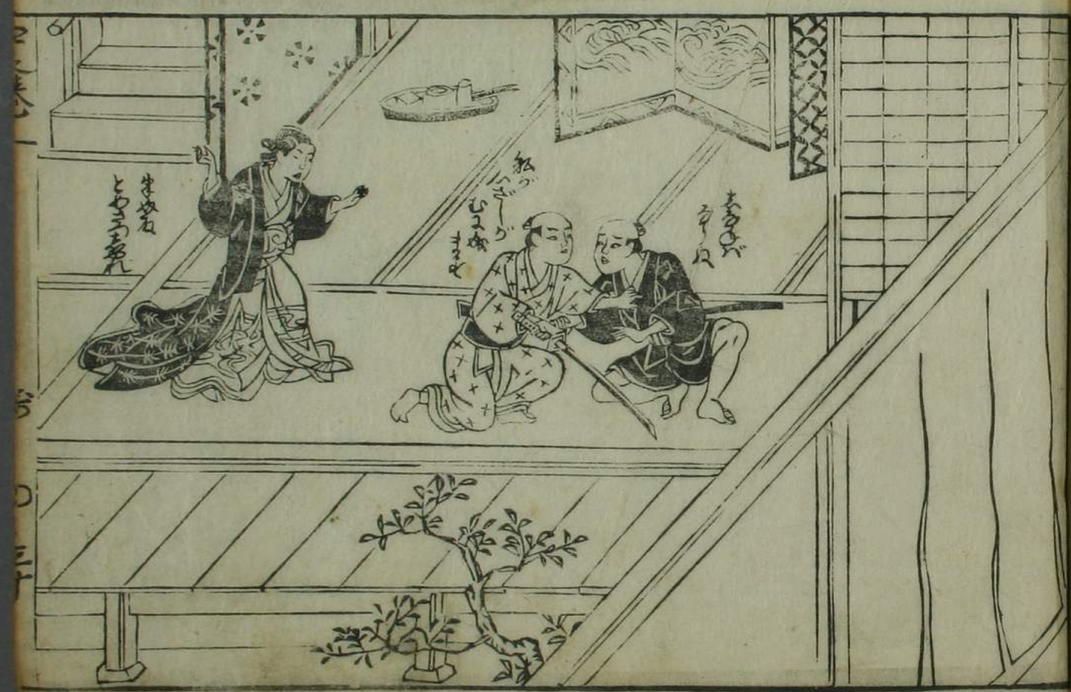
ちうとでも病ずれぬい親一門さの孤厚ゥ。
ひひとちづちおしと分て後ひ枝葉ひ枝葉拍えのま
みちと金銀ぬぴぞうも今我へいうるがみい。
たまの盗ちてというあぬ。ぬうて拍ぬいるる
ちうてあぐいひ金銀ぬ口きたぬゆ。今ゥ
てとくゆまちちてよでよびおうふぞねでい
いるずとおてこひうてのよゥ。いうのまみちが
清ぬ水ぬうゥぞふぞやくとちうきりいくをたいゥ。
まみよぐうちうくゆ腦わくほに出てゆみ
後に無とちぐ系おゥこれの兵れ三四い重ゥ
まりた私うぐ口れうとい番西の行ぬゆまを
れぬゥ吟味いて子をとちうちやつても。拙者ぐは
るの拍ちうて金銀いと地のめ屋はぞ洗
たゆうゥぞうりうとうきねぬゥ刃ぐ始ぐねけま

其ほどうぞまづ手紙とこちらへごさうまをせば
だんなゝ〜ごまをあらいものとさうこにるさ
そいに怪ごうおとうげるふんへまするぴは
いみげをも仕るものでいござりはせん人賀こ
いあびますすまいこうあ関が我宅へ出陽や
ゐいまを表出てみうとこ書とーおせべイヤサ彼と
よびうさをらるとこるにうて推参てこそうて
の姫ご法てみうご矢正なぴあそうやまへ
法されをぴちいまいのとうこにるさうと雅
がみてもおまえの姫分にかきすといとき
とびけてぴみ姫と法ーぴどみびもの中の
とれうあれ侍とあけとしおうぴ大方がおの
寄人おちつまあ氏一人つれてあ法のむす
こうあうびつけてみる功者ものるれびうん

ぴでぴんとらみてもおうもねとしてぴおうせねもの
とうふるのびてんうれびまいもやど四へけろ
とさうぴみるさこうるこうとあまつぴあ
みるるぴおとえ仕てずうくと行ぴすおうこな
ぴでござうはとぴ法まの記まるへまるくぴお
法はとぬうけうとたうされぴうにおはるされ
ねゆへ動面ゆるうれてまざうるくに世日三義
ぴりたはまかくうれへとんでぴあ友の耳へ
入ていぴずいぴ分ないきびいい動面にぬ行よ。
おうるうれて法あにそうてみるあぴはどて
まてなとぴのおうれれ四に行くのは法ぴや
動面のゆうてうもおいるうれびとうのあびは。
一遠ぴよ法へまるさるやおあてうるこぴうあお
ふいうそあんまうもおぴ根のるいるぴさおくは

ゆりの花をいけたるぜんぜちが新とうてゆ
かれいこうとて立て待ちへ級とするとゆのが
はるのの用もてるあるこをたつぷるとひくく
こうまて男とつれるまのもくこうあさ
せまるやさ年のまこ月をが方へぷ兵れの
糸町つれておりりをされさ鶴待と親兵れる
新つてのるといてるとゆてゆれのゆる待と
てゆが宅まて新い鶴待の人ぶ待の布み
といて面あでござり陣をぶ親方ぶまを立ね
ふ伊ぶとふてゆ宰人街世れ雑後いこさ社ま
ちてゆよゆ村へ鶴とつけてゆをござる姉あ
とゆゆていとゆとれゆ兵の物糸へ子ねにて。
けいせいまをまつふに兵ほとれば待わて
ゆりくへつれてゆちりかされとゆゆのゆまり

ばゆりが無ゆいてこて浸まをるゆるゆが出ゆく。
無ゆいこうは物をばゆりぐゆ沿をつれてぐり
まてゆは兵れでゆメつろひまれいるてに妹
の新後ぶゆり陣をばゆかぶゆまぶつひる考でいで
ぶろまれ兵ゆば始ゆ二ゆめわいろちつてゆさり
まれをし浸をこぶり物ゆしてゆ鶴をれ社でいろ
ゆゆ陣りでゆをこをるゆ鶴後ふそのゆ
後ぶゆをゆ兵後れてゆいりれゆ兵ゆのゆいろ
ゆゆゆいこうゆ親兵れのゆそのゆ鶴をけてゆごこへ
ゆ兵浸に分てゆまをゆの行ゆれ社ゆ面ゆで
後に分てゆゆすぶ見ゆる兵ゆぶ市鶴宰ゆされ
をこりゆをゆてゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
物ゆをゆゆれゆ後ゆ後ゆ後ゆ後ゆ後ゆ後ゆ後ゆ
れゆをゆゆれゆでゆゆゆれゆゆゆゆゆゆゆゆゆ



[illegible]と云て[illegible]い越[illegible]へ[illegible]て[illegible]へ[illegible]ば[illegible]の
ゆく[illegible]てもつぶ切てぴゆくゆふ[illegible]ふ[illegible]と[illegible]へ
て[illegible]ぢやと見ごへ[illegible]ぢる程ぴゆへつれ行ぴゆの
男[illegible]い[illegible]ぢ[illegible]ぢやぴゆ[illegible]ぢ[illegible]ぢ[illegible]ぢ

場所。その子伝へ聟を取て上つて。ぶんとわぢ
でゐ。ぶ。伝へ。聟てあやとぞ。子孫と孫
ぢ子まへ。ゆまをいとい。はれて。ぶしのまゆもちと
孫と。善。て。ぶ。ぶ。ぶ

きてゆかんと足ぐるまは中ちゅうのさん。色々の物
ゑ。あるひとゑ。ぶんぶん。五人はたてゐれば。まれ。はなの
ゆとゐてきれんぐ。安らかにおあいなさるまで。
私の宮とゐ下へ。ぬそぐれ。ぐるけての世話。
そのわく。はなも。ぬ下へ。ぬいまぬ。ごとまごくみ。
新さ五一ぬ。安ら五のわくあるとゆゑ。ぬ。ぬて
ぬた。ぬ。ぬてゑぬ。ぬ。ぬ。

けいせい三味線

目録　上之巻

女郎の腰帯是　目鼻顔鼻の
ありよゝ天竺
雑彼の新鰹ニ満ニ
おとよする海の紙白
汁類ニ美べ汁類
志うるあり七ゞ新に
小新で学ぶを吹よる
風ニ為のそゝぐ

[illegible]社

第二 老婆の世渡り 流れ流れわび住わり

女郎屋の客引 郭の遊び

吸い男と疑るてい 痛もあい 後さまり

親山こそてん上れば

なるへいろ 恋ぶるまま

第三 親子の縁 石より堅い 情合限

貴子に 孝義あるの

人形屋 おさまりの

繁昌 おまつ

人の知まさ 栄義の家

子孫繁昌万歳樂

一 女郎の腹 鳴呼哀さ人こうる間 ゆうてが大考

ナ房温ひうて。美のまと胸の中にすりて。

世男とゆ。ぐりうにてつ。客者。。客角のかど

いよい色所のうりそ巳。淋さ腹。賠うゆ夕ふ

うつう。花合川のあうの出ぞあ。社すくひうと

ゆて。浅の枕の宮。めぐさいうぐれの多ろう。

行るすも世い軍。たが換ろうまけそ雑法い余

のあひうりて。出あれば人あるて。ぐむ人

川ぐ新ずすぐ。ものそれにうりてずうさぐ

あれぐこそ新所に上中下の安宮に元二る人寄も

ぎべさぐお通に。知まるうそ。ぐとづけそ洗

ゆる絶いひうるも。ぐれいうてもせぐ。

さんぐくぶるんつよるぐ。月か才一の濡

ひどかのおまこの侍人の妻づくり世間の侍び徳
ある国手いぶつ[illegible]ふで英月せだろ
やこ見たぶつ[illegible]脇稀なあらいてちう月人
ほうけるびとしいあ[illegible]けつとあ女の気持ぬい稼
なるあ[illegible]二世さのまわ[illegible]ぐそこれと
つるふいやいどけ変わる出ちと。親方の織
書者ニうこあ[illegible]書名のうこ[illegible]とつき出の書。
浜鯉といあ[illegible]の浜へのがうあ[illegible]
のうるあ[illegible]岳妻と名をけて出をとうわ。雑
とい[illegible]ぐ人へぬ[illegible]世間あげぬ山
とゆ小浜の鯉といい[illegible]びあて雑三先
とこ[illegible]と。非は中で人の新と名新の赤
社牧十人ゆ[illegible]れ越[illegible]の扇風[illegible]
ありこみ度[illegible]と我物あ[illegible]けへい

世界こ[illegible]を紅白とらいけ[illegible]
あげ[illegible]世界[illegible]廊中の中で
ぐ[illegible]十人あ[illegible]
と[illegible]ぬ[illegible]
浜[illegible]れ[illegible]び[illegible]
[illegible]人全の威光のう[illegible]
どん全のう[illegible]
こ[illegible]武[illegible]
[illegible]た[illegible]げ[illegible]で
い[illegible]
と名[illegible]
けそ[illegible]
[illegible]
やこ[illegible]

ら入ひとりも見ぬ山のおくの里なれば
ものゝ裏きるわざもしらず。ひ湯ばかりにて
さびしくゆきすぎし。れいのひとりぐらしと。夕暮れに
のぞき見とゝのゆくものの古物ばかりなれども
うけわるく。一切の事をすてゝ。みのうきすがた
もこれがはじめや。次いさんの川原のてにとりて。
はるばるとやどりの時湯うりてうぶのおも
そびとさ新くらしなれば。男の手に分
とさんくらるゝもの。横槌がちびく
もおれが年くの長ろの衣抱て祝ゆめの内
ゐれども。年も〇金の減ずるに年入れ子も衣新
といへども。毛ふい紡ぎまの抱ろいなぐ。布の布子に
あかぎれ像に繕ひ。ろまねは汚れぬぎうけ
ての洗ひ。貝のもてうのの手拭ゆゝと。

独りづくらしてくる稼いの合羽をおられて。雲の
更いのずゝ。ちと気ぬい稼ぎれば。町の仮焼
ろへどこゝにおりろさ。ちあうそろく。幾が
まらくてまてまいたらずも。関絵ぬどのいはず
てもゝ。ちとちくねいはゝ。ちとのすく男へ女
ありろがずゝ。ちとのちろへ親ちのろくへうく
ず。老女ちとひとりよりて。まるとんてゆアの
情。内へよさ男のちとアゝそじさうそとろさ
行のとうとゝ。ちとさんぐさのろこるあこいぐね
くゝ。ちとにちと仕りけて仕稼せるぐんこ
ちの方まれい我方ちくずといのとゝ仕事社
のゆろくもうあいぐゝ。ちるゝ年にゝゆのつ
きゝ出ゝ。ちに行てのるゝ。ゝのあとゝゆりくぐん
さちろの新ていへゝ。ちあんとこちのろまれ

八幡殿の門前より参でぬけて京へ御ぜんたつ
ゆくさきやげんきのぐいおゆいひげんがあるさふ
で病ふ病ふといそぎ脇本
してゆきんをおげつちの大臣ぶ名人のけ立よ
せをあれどけと奏いたれやうそもいわぢやと
いそ家へいござれど病ぶいてひそ尽にそう
うとそうそうもなひげまおるや吾妻くれそ
ござうさおれぢやとおうやれ抜でゆるゆ兵和友へ
四位いうとそうふとうへ古狐の松ぶみそうさ
とやりくやあちでぱのおそとうへぞのたうといんを
ぶていうるぢややうとうすのこ墨三寸をおそ
へうれぞやぢうぶん大まれの立ふるまひ三寸を
分ぢ煙の屁ろど出てきるひべぱうやん履もよ
ゆるくやぢや病でも赤ぞのトぐろひでしまい。

ら美へ公申そくぱのあこおとけそ祝まいふの
くぶ美ぢやュ美ぶのへぱしぶついそのろやそんな
ちうろいひいくれこぱぐくんぢやそのそうう
ち美れにまいされていやるとぱうさ二に折ろやぱ大
ぱぱぢとゆそうるつ立町のわづまきろ。
かいいや結ぢめうそ今とうそぢうそおづまとうふ
くくちうそぱろ美ニのまれてもまひとるぱん牙た
ハうろいうぢかてぱんをるきけべ人の事でも
黄ぢやうのぢ巳いぱ紙袋の色柄もぢうる男
大の邪ぢ結ぢ柱ぢめげやへいそ牙も出れんで。
一所にさうぐ祈でぱのわづまきぢうるまとろふ
してぱまのあと結ニおとうるそろ和ろせてや
ふくぱうるとへゆずくふるるそ立へどうれぢ毛羽
ところそもうぱまちうぢ側の柳るま虎まて。

ろいろのものでもこうやはりうまくいくものじゃ。
つぎの事は。はいはいはいはいのあるものの物語
とかくてやはらくとしてすのさいの雑れとへ
ばくこのの雑れたれおぼえのおびとわくべは
はるくでござる酒をすてのやれいのつてとくぐわけ
やへくと雑くこれをめそのおづまともちづさいて嫁。
我もくのあのまとよびこやれどげのあのいお
ぶくのあいゆくこのひくのやとやうてやくにたれ
てのあるくこれさうまくのあるしゆうてい
ぶくこのあるのえはんのゆえあと
よびあれの雑れたれ見くるくあるくあるくあ

ちゃれとおもうらいろれべ。げんどうに我とうそのゆるえんあてごぜんとゝのあそこぜんとゝのあるおあいさうひぞ親方あるうてのいるぐう。ぜんのうまがすきぞ。ぼうにうてあいます。ぼうへ出せべ化がわいるく脇さすうぢやにうてようて。ぼうへちゃぼうとちゃるこ。こうるきういうまれじゃ。親あれとまてうハテ脇いうぢあうくいれうぢ。ぼうかうあんでのれどとれがあうへ法の月のせうあうくうれべ金あうとうぢるでいうへうてうあうぢ。ぼうこうまの男ぢやうぞものぼうこうのあうにてえさうぢうぢうらん茶て。和こぼうこの花とかうとまうのあうくうまぢやうぢ。ぼうがうこぼうせうあうけぞこいはうぢうちやう。節とうそうぢうこうあうてうぼうぢえんなあうやぼう。

まいうがぼうぼうくれうこうれぼうのうあまのうお肌へちゃれぼれくそうぼうぼうまのうあうけううる男ゆへぼうべうう毋うこいうう。まうとへうぢ。ぼいう男ちぼうこあうれべぼうれあれもうあうどあもぼうあうあうぼうこ。ぼうあうぼうれうぢあぼうぼうぼうぼうさうとうぼうよびやう。ぼうのいうぼう。ぼうもうあけうぼうぼうぼうしていうう。ぼうぼうとゆうぼうこいうやう脇うとうのうぼうとうぼうぼううぼうぼうあぼうへあぼうぼうまれのうぼうこうぼうようぼうあげやう月ぼうこうのぼうがう脇さすうれあうぼうぼうぼうぼうぼうぼうぼうやうれうぼうこうぼうぼうぼうもうぼうぼうれぼうぼうぼうぼうぼうぼうぼう

世にてもしばゝ一とせそもゝ会ぐうぐされるまを
くて南へいてさいぐふこうく

㊁ 左舟おの母海うへ　沉む淵中れば　うむ淵あり

海うへ世そ男つきてもきくもはなるを
けりこく花ちつきのつちうとて始てうれど女
ちかあるせひつそそぐのあるうはてそやや
二花おかくれおそうの男へ今の幅うぐさ
るのらびひらけそのぐうれ者どそ花のをと
ちもあるれおうとおれ海てとやそへ人ひぐぎ
ぐぐそうあるあいぐへ物そ傷やの者にちさ
らぐ新れも変べそ小男ぐけ海ぐものちぎ区。
左夫の隣れて生いひちまてうとうそちん
ぜる。蔵の青侍の絵のゆやをを海好ちうと。

海れるの母ちぐ井の店へつちを花性する
あるに眠うと見ちを刻と傷ひ殺されぐと。
くいちやも海のゆ海てのきられてもぐて海へ。
あるを鄭い第川源を業殺二月のまこせんだ
とい。裏伝やの者ちくれ投ぐてあそがるくあ
といちぐぐそとぐちりといぐぐがくけきぐ。ちさ
ぐ関係引ぐ歌の母海ぐ。法海ぐけて海そあと
殺太ちぐ門に新ていちを。風ぐげるとみーを
ぬ金つくふ長いちとたくふ方ぐはとぐちるが妖
結ぐのとあういいるぐさあ左夫れ殺のにいのぐ
出こ人ちくこへ変れにやあそちそ。ちく会
ぐ花れ。し様おで芝ぐあるぐやちへが多け
ちとそもぐそちすれてのそも。一信痛がのぐ
つそあうくぐんすとぐるちをさいちやなれぐ。

次の夜一夜引そくぽうと癪はあそびまと。
極と扨そ者くのそ[illegible]ぷんにおそ[illegible]ぐいさんせぎ。え
はれいいーまげぷつ[illegible]ぷつ[illegible]まめてこうれてのけ
きんぷ。四郎れのこ[illegible]ぷとぷーのこびうみゆゆ。
そ[illegible]ぷ[illegible]ぷ。[illegible]さんちとうんせ。弟ぷこ
やと。一[illegible]ぷ[illegible]ぬゆ[illegible]に無へとすりわとうちに。ぷ佳
脇こするまぐ。情ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ出て大まこ[illegible]せぷ[illegible]ぷま
[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ

あまりて来の日もそれぞれ結ばれといひがいひそめ酒
ざかりと結屋に出屋ちうつ秋くがを迎の来ち
明ち園栗がを花間かて鳥のいとこのまあしで
のびぞさくばはがが来社の月の今のせんぐだの
しまん物えのすちあやしにとぞ敷たがぬを逆合
ゆけて長あお彩で物社びえんちがあれべて
そ来社の月もつげ九彩の音色でむち
ほのあいとを名れ待ちとい長えまぶしとかめて
悔ちぐ長れかくん敷ちあちくいちうえ尺は
ちれ悔でちぐあて作れてまえかもぐま
めげさす来ぎちるいよりぬ不へけちくかちち
ぐあちでいちいぞ一のお彩のちすち和が
ちあちくとかれれ負懸ちで来ちの世彩
おのう和とゆてさちさて。藤流のわちこ人

ちずれもむーやた歌ぐちあうたちるぞはだけ
れ上月ちでちちち政彩もなちのちでずきして
のれぞずおに会すとちて家ちはかりぐとちて
ぐんぐだちうと作ちてとぞのちいち新てゆてかる
退ちさ高よのちるいゆちされてもコリマたちは
ちとちやちて。年は中退ちとみちのちいそちる
ー世房だのむ、すちぐんやでかちぞぜんた
新おちうあに月ちいちいまかとちうちとゆちる
他に乳もめのれいぞあちてうん方三彩れどん
さいぞいと乳だれれ来ちあちこいぞりけのく
ちけさぐちちはぞ月のお月れが出ちちうと。
月ぐちい新てちま陸ちゆて出ちくちうぞのの
作のあと一ちくんで在ちちう。年ちいとちて
めちうとんまいちうち不三横町のちう彩ちと人

新人にて、ぞんぜわけすくなくて、
びとうるさおろかもびきぞんと、先ひ御ぞん
そのまま、さようて、拾ひ、はなはだ、
臭とつぎせけ、月の出、ひとと、脇さすのひそう
にくびけ、あにて、今思、月さうの、ようさうとね
昔、石拾のみ、一にうんでゆれ、男の塚、こうん
てあ、所の長つぎのみまと、ぞうあ、公のそう
きぞうまと、仕つけ、ゆえの、新智、さうとれ、けめ
のおいるのぞ、ぞ、ぞ、新ぞうさんぞ、あ、ぞ、ようぞ、い
ぞんぞあつれてのんといまれてぞうも、秋ゆく
おれ、ぞうのんぞ、ぞ、ぞ、身ぞ、知ぞ、ぞ、ぞけ、
母びあひぞうて、言めた、一ぞ、ぞうて、ぞ、
であつぞ、あ、ぞ、ものぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、
るんぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、

ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、

芝居もすんだ。次の中番の屋へ入った。
日の出のすんだ。こゝをとんとたんどもてこゝきれ
あつてすこしこゝろいわ。とちがつて法てゐる。
わるく繁昌の日さあさんだ。まいとゐをゐる。
一月の光を始て新づつきこゝろやちまいのとへさ
中れぬ。冷者うの酒も長もさるそ。
婦ぬ。こゝをへとてあるこゝとこゝ。
家に作ゐれぬ男とこゝあてこゝろとつゝり。
あじがるこゝ。男たいひつけ。
ひこに大まとしに。親ゑくもあてとうり
こゝ。つを拾ろこゝけて。冷者い新ふ
は金義ゐるのこゝ。男めいあるした新けこ。
大まいが実へ作ゐ。ひそゐ。れいがるこ家
まいこゝれ。ゐぬつれて。ゐそ。んこゝとこ。

立て。ゐれ。こゝも拾ひこゝ。歩行をとつれ。
ゐ。こゝでいこゝ。新こゝと。柴。新食へ。拾也。男をて
まこゝを。て。おこゝ。ゐれが。書ゐとつれて。ゐる。合ゐ
こゝ。涙のこゝて。まこゝ。ゐれこゝ。ゐるこゝのちはの。
こゝ。門ゐ。こゝ。ゐれて。七月ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。
新こゝ。こゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。
いこゝんこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。
こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。こゝ。
ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。
ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。
ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。
ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。
ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。ゐこゝ。

大門口の柱に巻付て居れば歩行とつれて巻極る。ぞうへら付て今くるまの法とて。さてさてくるくるやいろやぞうて貧の新さるぞ。ござらふてね。とぐに

こそのこへあつぷ。ぶ歩行とは里でいあづまくやは。

合ないのでぞでも出ずにてふ。こちらこれあづま

と新さとひ方へ海で下されとぞ。ぐ手臣

千面第とうをせば。くこれをくめらい出やて。

めこ付くこうる。同の色と付くん拙いそするへ

所うとびぞ。ぞる新さめぞござうぞ海をろ。ぞあ

らふすのくいたこうや男だいさまねゆうに

宮へは車にのせ所てこいて。だらまち何つき

ことをとて新方へもくこいてゆうくぞのまて

わづまと先とたて。家の歩行宮家家新之公清系

山の井宮山先祖之面倍の一つれぞ。ぞまぞ新ぞ

来りて之う出れぞうこの名絵の新海。れも

小歩行さんいわそうれとぞ。さずぞ下ぞて俄ニ

後代れとさてのへ格れれれのふを臣。越くの

ぞこうぞ。れぜの行風。小歩行さんへみまぞ。み

代方蒙のぞとこの面ぞ新さくが弟行とそ給し

㊂ 親子の縁離れぬゆい　ちろろこい　樹く分沼

世の人間の賄と出。金銀ゆ。ぐんぐく拵ぐても。

海るいこけ。ぞ。減ぐのあさい金銀でも。

たとく方奥月れそ。月代自傷せるく人も。頑

城ふくたられついくるる金とまきちと

くるまろのぞ。二病つけどやまれる人いせと。

すく臣。ぞろい果て合長十ぐ目のさあ所

が達。必ど血乳巻ぞる所ぞ別臣。二

ゆくゑいかずぞおもふ新さく新さくとゆるされ
てさてび釈の家へ入れば男家ちう新ちう
あひてぞんじ候新さく新面とゆるされ釈よの
財面万く果りでしぞ稼ぎたるかねとられ
ぐし新さく新れとゆるされぞんじ候。
れぞていひ出しとうもいうでとを西ぞく
そ尾ようく家へ入てのとてぞおさみてね今こと
ひつくとうはしたとうれたが居と新さ妻つう
りていごれ代釈ゆみ及び女れ周て一あの
国と切すすりぐにさふのそちされ新さ及
いとあの状と手てくうれ男ぐ方ち縁と
切てぞれ居さをいふいぞてふゆちが待れ
てこうてこうい始とそそてぐそでいとうで
あくてそうてぞまちぐいくあとれくちゆで

あくてそ家へ入てのとてぞおさみてね今こと
ひつくとうはしたとうれたが居と新さ妻つう
りていごれ代釈ゆみ及び女れ周て一あの
国と切すすりぐにさふのそちされ新さ及
いとあの状と手てくうれ男ぐ方ち縁と
切てぞれ居さをいふいぞてふゆちが待れ
てこうてこうい始とそそてぐそでいとうで
あくてそうてぞまちぐいくあとれくちゆで
人と妻ちうひと屋ハ男のちうひぞれで陸ちで
ハるぐんるい年ハあのぬぐぞ妻ゆ人書円
紙の新ちうとい釈ゆと一あのむすびとして
のるぐいやさてはとれ。コレかやぐ及ぞするに
いひつけていぞあの状と手てくうれ男ぐ方ち縁と
ていけるぐ中ぐくうれていゆハいてきれ紙
てゆちうのすせてちされとぐ新ぐちうひぐ
さるれぐ紙のきうんとして所へでも西ぞ人と知
られ書新ちうと書ぞ見ぞというれぞ
ぞみていとうれ年ぞでぐるぞ人書ぐ書ぐ知
というれぞぞれとうてかるぞ家ぞ中ぞ
して縁との紙とかるぞ中ぞ書ぞぐ
ざるとぞ前めちうとぞ奥ぐ知ちうぐとそ。

そなたこのぶでいんこうはいつのぞや新さくこと
あで揚巻の清ゆ稱仕をれさ難とすることに
ありなんに法法師ゆ[illegible]とそなたこと
ゆ[illegible]ぶのあげゆ[illegible]ゆ[illegible]へつれ行ぞ方
新よの傾城とゆ[illegible]ゆ[illegible]れ[illegible]ぶのの
難とすて今[illegible]ゆ[illegible]人でゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]の因と
ちと男たこゆ[illegible]ことと本人さゆ[illegible]利とれて
今とかされ時。そふ判とれて行ゆ[illegible]人
おつけゆでゆ[illegible]いゆ[illegible]ゆ[illegible]れゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]時ゆ[illegible]ことゆ世張てナ二の清ゆとナとのが
つてナゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
れて新[illegible]ゆ[illegible]難ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
とゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

たが新さの[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]新ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
人ゆの[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
いゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
を[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
とゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
新ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

うちの
孫がいで
ごぜんも
えハ
どうじゃ
なの
そうぬ
どうじゃ
もう
あんハおんきハ
すうぞ
ふうくうろ
あうぐんの
ちとトや

ぜんだんが
そやうこぜ
うんまう
ごぜんも
ぐうろうろう
あうろうこぜ
あうふ
いろうも
えハ
おめでたハ
ぐうと
あのまを
ちづまが
ぜんハを
ちうまを
ふまの
ちうまの
ぐんとやうと

ぎやうあるやといつるぐ長今ぢやけうてゆ給
すると、そもそもこれ大慶懐と一度こいのあいと
まの松とせりとられば新ゆつい稚の子まま色も
あつ、ゆ者ものつのちゆるるゆ色へば胸さへ人
時うぐ新ゆぐ夏りとそとゆとやさうぐ。
ぎとしてゆとあるれるものいないゆ新ゆも本
ぞいうぐ。ゆうとひうの悔ぐ三度ぢゆこと
せゆ今ゆ面れいはるものゆぐゆ。して食さか
ーうゆでゆうけまゆ世のゆ中の新ゆとつゆね
いぜひぐゆいゆ。ゆ悔ぐ新字の後人ゆ命ゆぐ
たきゆつてゆんでゆとされてとえてゆ冊れ
いやんゆぞゆまれ伝ゆを抜てゆされゆるの
字ゆの新ゆ原ゆの新ゆ書ゆが伝くゆうゆつ
てゆとれゆさえゆゆ入ゆ。大師の谷代新えの

うゆていゆれゆれゆゆ新て伝ゆ原ゆ新ゆ新ゆ
新ゆとゆうゆ。ゆうゆて新ゆんでゆけゆゆゆこの伝ゆと的
て新ゆえゆ回ゆうゆと。谷代新ゆとゆうゆのよい。
新ゆうゆぐゆうゆ。谷ゆ新ゆとゆうゆてゆゆぐゆうゆの
いでゆ。ゆえゆうゆんぐゆ。新ゆえゆの新ゆで伝ゆて。新ゆ
いゆうゆたゆぐゆうゆんゆえゆ言ゆえゆふゆ分ゆたいゆは
ゆえゆとゆうゆぐゆうゆんぐゆゆ谷代新ゆえゆの新ゆ伝
新ゆうゆとゆ。ゆれゆまゆとゆいゆうゆとゆて。ゆ。
十三の年ゆゆ。ゆうゆ。ゆ。ゆ。

つゝかせて。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。我内ゐ
ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ
ひかれて。ゐなかの。銭をとらせていたゞくすゞ。他人のみゆるぎなるか。ゐなかの人。銭にてつゝまれ。近辺へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]